

**ServerGuide と  
Netfinity マネージャー**





IBM

**ServerGuide と  
Netfinity マネージャー**

第 1 版 (1998 年 9 月)

原 典	01K7609 ServerGuide and Netfinity Manager Information
発 行	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当	ナショナル・ランゲージ・サポート

©Copyright International Business Machines Corporation 1998. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1998

# 目次

---

<b>ServerGuide</b> .....	1
<b>第1章 ServerGuide の紹介</b> .....	3
機能一覧 .....	4
構成の概要 .....	5
ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストールの概要 .....	6
複数サーバーのセットアップ .....	6
NOS と対応するパーティション・サイズ一覧 .....	7
構成および NOS のインストール .....	8
<b>第2章 付属しているアプリケーション・プログラム</b> .....	11
アプリケーション・プログラムのインストール .....	13
<b>第3章 問題の症状</b> .....	15

---

<b>Netfinity マネージャー</b> .....	17
<b>第4章 Netfinity マネージャーへようこそ</b> .....	19
Netfinity マネージャーによるサーバーの管理 .....	19
Netfinity マネージャーの資料 .....	20
ロードマップ .....	20
<b>第5章 システム要件</b> .....	21
Netfinity マネージャー (OS/2 版) のシステム要件 .....	21
Netfinity マネージャー (Windows 95 版) のシステム要件 .....	22
Netfinity マネージャー (Windows NT 版) のシステム要件 .....	22
<b>第6章 インストール・プログラムの始動</b> .....	25
<b>第7章 Netfinity マネージャーのインストール</b> .....	27
<b>第8章 Netfinity データベース・サポート</b> .....	33
DB2 データベースのサポート .....	33
Lotus Notes データベースのサポート .....	38
ODBC データベースのサポート .....	41
<b>第9章 Netfinity マネージャーの始動</b> .....	47
Netfinity サービス・マネージャー .....	47
Netfinity サービスの説明 .....	48
OS/2 システムでの Netfinity 始動の遅延 .....	54
<b>第10章 詳細情報の入手</b> .....	57

付録A. インストール・オプション .....	59
自動インストール .....	59
カスタマイズしたインストール .....	60





## 第1章 ServerGuide の紹介

*ServerGuide* CD には、IBM Netfinity および PC Server 用に独自に設計された、使いやすいサーバー用のセットアップおよびインストールのプログラムが入っています。*ServerGuide* は、サーバーのモデルおよび取り付けられているハードウェアのオプションを検出し、それより新しいレベルのシステム BIOS またはマイクロコード (ファームウェア) が *ServerGuide* CD から利用可能かどうかを通知し、その上で構成プログラムを実行します。ほとんどの場合、*ServerGuide* がデバイス・ドライバーを自動的にインストールするため、ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストールが簡単になります。

### ServerGuide の特徴

*ServerGuide* はセットアップを容易にするために、次の機能を提供します。

- ハードウェア検出機能は、必要な構成プログラムを判別します。セットアップおよび構成用のディスクは必要ありません。
- サーバーのモデルおよび検出されたハードウェア・オプションに基づき、*ServerGuide* は適切なデバイス・ドライバーを提供します。
- ご使用の IBM サーバー用にテスト済みで、ご使用のサーバーをサポートするデバイス・ドライバーを提供します。
- システム BIOS およびデバイス・ドライバーの更新が簡単にできます。
- *ServerGuide* セットアップ・プログラムで、NOS のパーティション・サイズを変更することができます。
- 現行の Microsoft、Novell、SCO、および IBM オペレーティング・システムの最新の修正モジュールを *ServerGuide Operating System FixPak CD* で提供します。したがって、それぞれのソフトウェア開発者の Web サイトにアクセスして、修正モジュールをディスクにダウンロードしたり、それをインストールする必要がありません。
- Diskette Factory および Book Factory などのアドミニストレーター・ツールを提供しています。
- 機能性の高いアプリケーション・プログラムを、無料で提供しています。
- *ServerGuide* の GUI インターフェースは使いやすく、オンラインでヘルプを参照することができます。

**システム管理:** *ServerGuide* には *CoPilot ApplicationGuide CD* も入っており、これより最新のシステム管理ソフトウェアである IBM Netfinity マネージャーを利用できます。

**容易な更新:** ご使用のサーバーのモデルおよび構成に適応した最新の更新情報を得るには、*CoPilot ApplicationGuide* に入っているプログラムの 1 つである、IBM Update Connector を使用してください。IBM HelpCenter サーバーに直接接続して、ご使用のサーバーの BIOS、マイクロコード (ファームウェア)、デバイス・ドライバー、およびアプリケーション・プログラムを更新することができます。Windows NT Server 4.0 および Windows 95 IntranetWare 4.11 クライアントは、IBM Update Connector を使用して、LAN 上の他の IntranetWare 4.11 サーバーを更新することができます。(IBM Update Connector を使用するには、インターネットとの TCP/IP 接続が必要です。)

## 機能一覧

次の表は、ServerGuide の機能の要約したものです。機能は各リリースごとに異なる場合があります。更新情報については、オンラインで「概要」を確認してください。

<p><b>HardwareGuide CD</b></p> <p>注: HardwareGuide は、始動可能 (ブート可能) な CD-ROM ドライブを装備し、その上使用可能になっているサーバーでサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システムの日付および時刻を設定します。</li> <li>取り付けられているハードウェア・オプションを検出し、次のようなプログラムを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ServeRAID 構成プログラム (使いやすいウィザード付き)</li> <li>システム構成ユーティリティ・プログラム</li> </ul> </li> <li>システム BIOS のレベルを確認して、CD-ROM から新しいレベルが使用可能かどうかを確認します。</li> <li>ServeRAID BIOS およびアダプター BIOS (ファームウェア) のレベルを確認して、CD-ROM から新しいレベルが使用可能かどうかを確認します。</li> <li>ディスクを作成せずに BIOS を更新します。</li> <li>ROM ベースの診断プログラムを更新します (一部モデル)。</li> <li>拡張システム管理アダプターおよびコントローラー用に BIOS を更新します (一部モデル)。</li> </ul> <p><b>SoftwareGuide CD</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取り付けられているハードウェア・オプションを検出し、アダプターおよび装置に適したデバイス・ドライバーを、必要に応じて提供します。</li> <li>評判のネットワーク・オペレーティング・システムを簡単にインストールできます。</li> </ul> <p>注: SoftwareGuide CD のラベルをチェックして、サポートされている NOS バージョンを確認してください。インストールには該当するバージョンの NOS の CD-ROM が必要です。</p>	<p><b>SoftwareGuide CD (続き)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の Windows NT Server 4.0 用に、インストール内容を「複製」します。</li> <li>NOS の特別なインストールのヒントが README ファイルに入っています。</li> </ul> <p><b>Diskette Factory</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マウスを数回クリックするだけで、IBM Netfinity および PC Server 用診断プログラム、デバイス・ドライバー、アダプター、およびその他のディスクを作成することができます。</li> <li>テスト済みのデバイス・ドライバーが入っています。</li> <li>タイトル・キーワードによる検索機能で、ディスクの検索ができます。</li> </ul> <p><b>Book Factory</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IBM サーバーに関する資料を表示あるいは印刷します。</li> <li>次の内容に関する資料が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Netfinity および PC Server モデル</li> <li>ソフトウェア統合</li> <li>クラスター・システム管理</li> <li>Netfinity マネージャー</li> </ul> </li> </ul>	<p>システム情報ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ご使用のサーバーのハードウェア構成に関する詳細 (以下を含む) のクック検索をします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アダプター</li> <li>ポート</li> <li>メモリー</li> <li>ビデオ</li> <li>エラー・ログ解釈</li> </ul> </li> </ul> <p><b>RAID Manager</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RAID サブシステムのすべての状況を表示します。</li> <li>単純なグラフィカル・インターフェースを使用しています。</li> </ul> <p><b>Operating System FixPaks CD</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サポートされているネットワーク・オペレーティング・システムについて、ソフトウェア開発者によって提供された最新の修正モジュールを提供します。</li> <li>CD-ROM から直接インストールするため、ディスクは不要です。</li> </ul> <p><b>CoPilot ApplicationGuide CD</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Update Connector、Netfinity マネージャー、Lotus Domino などの、非常に機能性の高いアプリケーション・プログラムをインストールします。</li> <li>導入キーは必要ありません。</li> <li>プログラムは CD-ROM から直接インストールするため、ディスクは不要です。</li> </ul>
--	--	---

## 構成の概要

*HardwareGuide* を使用すれば、セットアップ・ディスクは必要ありません。どの IBM Netfinity サーバー、あるいは PC Server 325 PCI/ISA モデルおよび PC Server 330 PCI/ISA モデルでも構成することができます (ただし、始動可能 (ブート可能) な CD-ROM ドライブが必要です)。*HardwareGuide* はサーバーのモデルを検出し、必要なウィザード・インターフェースをもった ServeRAID またはシステム構成プログラムを起動します。

次に、ServerGuide によるハードウェアの構成手順を簡単に説明します。

- *HardwareGuide* CD を始動すると、使用する言語、お住まいの地域、および使用するキーボードのレイアウトを入力するようにメッセージが表示されます。この情報は、ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストール時に使用するために保存され、*SoftwareGuide* に渡されます。
- 「構成方法」画面が表示されたら、次の 2 つの方法のどちらかを選択して、構成プログラムを実行することができます。
  - エキスプレス・パスは、検出されたハードウェアに基づいてサーバーに必要なプログラムを実行します。各プログラムの説明は、開始する前に画面に表示されます。
  - カスタム・パスは、サーバーで使用可能なすべてのプログラムを表示し、実行するプログラムを選択することができます。各プログラムの説明は、開始する前に画面に表示されます。
- 「日付と時間の設定」画面が表示され、この設定を行うためにセットアップ (F1) に進む必要はありません。
- *ServerGuide* は、サポートされているオプションに関して、サーバーの BIOS およびマイクロコード (ファームウェア) のレベルをチェックしてから、そのサーバー用により新しいレベルの BIOS が使用可能かどうかを確認します。使用可能な新しいレベルの BIOS がある場合は、BIOS の更新をするようにメッセージが表示されます。
- 構成手順を通して構成のサポートをする、構成プログラムが起動します。
- *HardwareGuide* は構成記録を表示して、必要なプログラムがいつ完了したかが分かるようにします。

これで、NOS をインストールする準備ができました。

注:

1. プラグ・アンド・プレイ・アダプターは自動的に構成されます。レガシー・アダプターあるいは IBM 製でないアダプターでは、スイッチ設定の変更、デバイス・ドライバーの追加、および NOS インストール後のアダプターの取り付けが必要な場合があります。アダプターに付属の説明書を参照してください。
2. ご使用のサーバーの診断プログラムは、ROM またはそのサーバーに付属の診断プログラム CD 上にあります。

互換性のあるアダプターのリストが必要な場合は、IBM *ServerProven* の Web サイト (<http://www.us.pc.ibm.com/compat>) をご覧ください。

Web サイトの詳細リストについては、*Netfinity* サーバー・ライブラリーの「ヘルプ情報の入手」を参照してください。

---

## ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストールの概要

*SoftwareGuide* を使用すると、NOS のインストールに必要な手順を簡略化することができます。これは *ServerGuide* がサーバーに取り付けられているハードウェアおよびインストールしようとしている NOS に基づいて、必要なデバイス・ドライバーを提供するためです。

次に *ServerGuide* における NOS のインストール手順を簡単に説明します。

1. *SoftwareGuide* CD を始動して、「オペレーティング・システムのインストール」をクリックすると、インストールするバージョンを入力するように表示されます。ここで、購入した NOS の CD-ROM が必要です。
2. 「パーティション」画面では、必要に応じて *ServerGuide* の省略時のパーティション・サイズを使用しても、必要なパーティション・サイズを指定してもかまいません。
3. 「インストールされたアダプター」画面では、*ServerGuide* のハードウェアの検出機能がサーバーのモデル、ハード・ディスク用アダプターまたはコントローラー、およびネットワーク・アダプターを表示します。この情報に基づいて、*ServerGuide* は Diskette Factory から必要なデバイス・ドライバーを見つけます。(この情報は保存されて NOS のインストール・プログラムに渡されます。)
4. 「インストール・ディスクット」画面では (ディスクットからインストールするように選択した場合にのみ表示)、*ServerGuide* は作成する必要があるディスクットと、必要に応じて作成することができるオプション・ディスクットを表示します。

注: 作成可能なディスクットは、取り付けられているアダプターまたはコントローラーに適したデバイス・ドライバー・ディスクットまたは構成ディスクットです。

5. 「インストールの開始」画面が表示されれば、サーバーは NOS をインストールする準備が完了です。ここで、購入した NOS の CD-ROM を挿入してサーバーを再始動するようにプロンプトが表示されます。この時点から、NOS 自身が制御を行い、インストールを実行および完了します。

---

## 複数サーバーのセットアップ

*ServerGuide* によって、複数の Windows NT Server 4.0 システムのセットアップが可能になります。インストール時に「複製インストール」を選択するだけです。複数のサーバーへインストールするためにサーバー名、ドメイン名、およびその他の必要な情報を入力するように表示されます。*ServerGuide* はその情報をディスクット (複製インストール・ディスクットと呼ばれます) にコピーします。

複製インストール・ディスクットを *ServerGuide* と一緒に使用すると、必要な数のサーバーをセットアップすることができます。また、サーバーの 1 つに別のオプションを取り付ける場合は、複製インストール・ディスクットの内容を変更することができます。*ServerGuide* には、IBM サーバー用の純正デバイス・ドライバーが入っているため、インストールにかかる時間を節約することができます。

## NOS と対応するパーティション・サイズ一覧

次の表は、サポートされている NOS 別に、*ServerGuide* が作成するパーティション・サイズです。省略時のパーティション・サイズの変更は、「パーティション」画面から簡単に行うことができます。

注: NOS のバージョンについては、*SoftwareGuide* CD のラベルをご覧ください。

NOS	省略時のパーティション	パーティション (最小)	パーティション (最大)
IntranetWare	15 MB (DOS の場合)	15 MB (DOS の場合)	2 GB (DOS の場合) 注: さらに 90 MB の空き容量が必要。
NetWare	25 MB (DOS の場合)	25 MB (DOS の場合)	2 GB (DOS の場合) 注: さらに 90 MB の空き容量が必要。
NT Server	500 MB	300 MB	2 GB 注: ディスケットからインストールするように選択した場合は、パーティションが大きくなる可能性があります。
OS/2 Warp Server	500 MB	500 MB	2 GB 注: ディスケットからインストールするように選択した場合は、パーティションが大きくなる可能性があります。

## 構成および NOS のインストール

次の手順に従って、ハードウェアの構成、NOS のインストール、およびアプリケーション・プログラムのインストールを行ってください。

はじめにお読みください

- ServerGuide が始動しない場合は、15ページの第3章、『問題の症状』を参照してください。
- ServeRAID 構成プログラムに関する情報は、*Netfinity* サーバー・ライブラリーの「ServerRAID」、または ServeRAID オプションに付属の説明書に記載されていません。

- 1 ハードウェアを構成するには、*HardwareGuide* CD (CD1) を挿入してから、サーバーを再始動します。使用する言語を選択してから、画面の指示に従います。
- 2 NOS をインストールするには、*SoftwareGuide* CD (CD2) を挿入してから、サーバーを始動します。ServerGuide はサーバーに必要なデバイス・ドライバーをインストールします。

サポートされる NOS のバージョンについては、*SoftwareGuide* CD のラベルをご覧ください。ここで、購入した NOS の CD-ROM が必要です。

重要

NOS のインストールに ServerGuide を使用しない場合は、9ページの『ServerGuide を使用しない場合の NOS のインストール』を参照してください。

- 3 「README」をクリックして、NOS のインストールに関するヒントを参照してください。
- 4 「メイン・メニュー」で、「オペレーティング・システムのインストール」をクリックします。画面の指示に従って、インストールを完了します。ヘルプを表示するには、任意の画面から ? をクリックします。

NOS のインストールが完了したら、必ず 9ページの『追加プログラムを使用したサーバー・パフォーマンスの向上』を参照してください。

## ServerGuide を使用しない場合の NOS のインストール

サーバーのハードウェア構成の終了後、ServerGuide を使用せずに、NOS をインストールする場合は、そのシステム独自の NOS のインストールの手順およびデバイス・ドライバーをインストールする必要があります。

最新の NOS のインストール手順およびデバイス・ドライバーは、次の WWW からダウンロードすることができます。

<http://www.pc.ibm.com/support>

- 1 「IBM Servers Support」をクリックします。
- 2 「Select Family」フィールドから、サーバーのモデルとマシン・タイプを選択します。
  - デバイス・ドライバーをダウンロードするには、「Downloadable Files」をクリックします。
  - NOS のインストール手順をダウンロードするには、「Software Information」をクリックします。

## 追加プログラムを使用したサーバー・パフォーマンスの向上

ServerGuide にはサーバーのインストールを援助するための追加ソフトウェアが付属しています。

### NOS の更新

ServerGuide は、各 NOS のソフトウェア開発元によって提供された最新の NOS の修正モジュールが含まれています。したがって、Web サイトから最新版をダウンロードする必要はありません。最新版をインストールするには、ServerGuide の *Operating System FixPaks* CD のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。

### アプリケーション・プログラム

ServerGuide CD には、次のような機能性の高いさまざまなアプリケーション・プログラムが組み込まれています。(導入キーは不要です。)

- IBM Update Connector  
IBM HelpCenter サーバーに接続して、ご使用のサーバーの BIOS、マイクロコード (ファームウェア)、デバイス・ドライバー、およびアプリケーション・プログラムの最新版があるかどうかを確認します。
- IBM Netfinity マネージャー  
最新のシステム管理ソフトウェアです。
- IBM ServeRAID プログラム  
管理および監視機能を備えています。

詳細については、11ページの第2章、『付属しているアプリケーション・プログラム』を参照してください。



## 第2章 付属しているアプリケーション・プログラム

*Netfinity* サーバー・ライブラリーには、さまざまなアプリケーション・プログラムが含まれています。導入キーは不要であり、ウィザード・インターフェースでインストールが簡単にできます。

CD-ROM のラベルをチェックして、バージョンのレベルを確認してください。追加の製品情報については、各 CD-ROM のオンライン・ヘルプを参照してください。また、アプリケーション開発者の Web サイトにアクセスする方法もあります。Web サイト・アドレスは *Netfinity* サーバー・ライブラリーの「ヘルプ情報の入手」をご覧ください。

表 2 (1/2). アプリケーション・プログラム		
アプリケーション・プログラム	サポートする NOS	説明
<b>IBM Update Connector</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 4.0</li> <li>• OS/2</li> <li>• NetWare クライアント</li> </ul>	BIOS、デバイス・ドライバー、およびアプリケーション・プログラムの最新版をダウンロードするために、IBM HelpCenter サーバーに接続します。
<b>IBM Netfinity マネージャー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 4.0</li> <li>• OS/2</li> <li>• NetWare クライアント</li> </ul>	完全システム管理ソフトウェアです。
<b>Lotus Domino</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 4.0</li> <li>• OS/2</li> <li>• NetWare クライアント</li> </ul>	インターネット用のグループウェアおよび電子メール・ツール
<b>Norton Antivirus (OEM Version)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 4.0</li> </ul>	ウィルスからデータを保護します。
<b>IBM AntiVirus</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OS/2</li> </ul>	ウィルスからデータを保護します。
<b>IBM ServeRAID Programs</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 3.51、4.0</li> <li>• OS/2</li> <li>• NetWare</li> </ul>	オペレーティング・システムのインストール後に RAID コントローラーを監視し、管理します。13ページの『IBM ServeRAID プログラム』を参照してください。
<b>IBM Cluster Systems-Management</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 4.0</li> </ul>	サーバー・クラスター環境を構成、管理、および監視します。
<b>IBM Network Station Manager</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 4.0</li> </ul>	ネットワーク・コンピューターの管理を容易に行います。
<b>IBM Netfinity Rack Configurator</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 3.51、4.0</li> </ul>	ラック構成のシミュレーションおよび妥当性検査を行います。
<b>APC PowerChute Plus</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 3.51、4.0</li> <li>• OS/2</li> </ul>	APC バッテリー・バックアップ用ソフトウェアです。(Netfinity マネージャーが必要)
<b>Adaptec EZ SCSI Utility Program</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NT Server 3.51、4.0</li> </ul>	SCSI 装置 (CD プレーヤー、フォト CD ビューアー、QuickScan など) を容易に接続および管理できます。
<b>Advanced System Management Processor Device Drivers</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows NT Server 4.0</li> <li>• OS/2</li> </ul>	包括的なシステム管理および監視機能を実現するために必要なデバイス・ドライバーです。

表 2 (2/2). アプリケーション・プログラム		
アプリケーション・プログラム	サポートする NOS	説明
<b>Advanced System Management PCI Adapter Device Drivers</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows NT Server 4.0</li> <li>OS/2</li> </ul>	包括的なシステム管理および監視機能を実現するために必要なデバイス・ドライバです。
<b>Oracle on NT</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NT Server 4.0</li> </ul>	データベース・ソフトウェアの体験版です。 (30 日間無償)
<b>Diskette Factory</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NT Server 3.51、4.0</li> <li>OS/2</li> </ul>	サーバー・サポート・ディスクットを作成します。
<b>Book Factory</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>OS/2</li> </ul>	サーバーの資料を表示および印刷します。

---

## アプリケーション・プログラムのインストール

次の手順に従って、ServerGuide からアプリケーション・プログラムをインストールしてください。

- 1 インストールしたいアプリケーション・プログラムが入った CoPilot ApplicationGuide CD を挿入します。
- 2 次のオペレーティング・システム別の説明に従います。(x は CD-ROM ドライブ)
  - OS/2 Warp Server: コマンド・プロンプトで、**x:** と入力し、**Enter** キーを押します。次に、**SCOS2** と入力し、**Enter** キーを押します。
  - Windows NT Server 3.51: 「ファイル」、「実行」の順にクリックして **x:\SCW95** と入力し、**Enter** キーを押します。
  - Windows 95 および Windows NT Server 4.0: プログラムを自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、「スタート」、「ファイル名を指定して実行」の順にクリックして **x:\SCW95** と入力し、**Enter** キーを押します。
  - NetWare および IntranetWare クライアント: 上記の手順の中から、使用しているオペレーティング・システムに関するものに従います。
- 3 メニューが表示されたら、インストールするプログラムを選択し、「インストール」をクリックします。

## IBM ServeRAID プログラム

IBM ServeRAID Administration and Monitoring Program は、Windows NT Server 3.51 または 4.0、OS/2、および NetWare をサポートします。

- Windows NT Server 4.0 または 3.51 をインストールしている場合は、ServeRAID Administration and Monitoring Program を ServerGuide の ApplicationGuide CD から直接インストールします。
- OS/2 または NetWare をインストールする場合は、Diskette Factory から「*IBM ServeRAID Administration and Monitoring Program*」ディスクットを作成する必要があります。
- サポートされるオペレーティング・システム用に IPSSSEND および IPSMON 拡張コマンドライン・プログラムをインストールするには、Diskette Factory から「*IBM ServeRAID Command Line Programs*」ディスクットを作成する必要があります。

### プログラムについて

ServeRAID プログラムのインストールおよび使用方法に関する詳しい情報は、*Netfinity サーバー・ライブラリー* の「*ServeRAID*」または *ServeRAID Installation and User's Guide* に記載されています。



## 第3章 問題の症状

ここでは、ServerGuide の問題の症状とトラブルシューティングのヒントを紹介します。

### — 1962 POST error (オペレーティング・システムが見つかりません。) —

初期セットアップ中にこのエラーが検出されました。他の POST エラーが表示される場合は、ハードウェアのエラーが存在します。*Netfinity* サーバー・ライブラリーの「ハードウェア情報」の章を参照してください。

この表の左の欄にある症状から、該当するものを見つけてください。その問題の解決方法が、右の欄に記載されています。

CD-ROM 始動時の問題	処置
<i>HardwareGuide</i> または <i>SoftwareGuide</i> が始動しない。	<ul style="list-style-type: none"><li>すべての SCSI ID および IRQ の割り当てが正しいか確認してください。ID または IRQ の割り当ての重複があると、ドライブが CD-ROM を読み取ることができない場合があります。</li><li>ハード・ディスク・ドライブが正しく取り付けられていることを確認します。</li><li><i>HardwareGuide</i> がそのサーバーをサポートしているか確認します。<i>HardwareGuide</i> は始動可能 (ブート可能) な CD-ROM ドライブを装備したすべての <i>Netfinity</i> サーバーおよび PC Server 325/330 PCI/ISA モデルをサポートしています。</li><li>始動 (ブート) ドライブの設定を変更した場合は、CD-ROM ドライブが始動順位の中で最初になっているか確認します。</li><li>複数の CD-ROM ドライブを取り付けている場合は、SCSI 優先順位の高い方のドライブから <i>ServerGuide</i> を始動します。</li></ul>
<i>SoftwareGuide</i> プログラムが連続的にループする。	ハード・ディスク上の空き容量を、さらに増やします。
Diskette Factory または Book Factory CD が始動しない。	これらの CD は始動可能 (ブート可能) ではありません。プログラムを始動するには、 <i>SoftwareGuide</i> CD のメイン・メニューで、Diskette Factory または Book Factory のどちらかをクリックします。
<i>ServerGuide</i> が NOS の CD-ROM を始動しない。	使用している NOS の CD-ROM が <i>ServerGuide</i> でサポートされているかどうか確認します。 <i>SoftwareGuide</i> CD のラベルを見て、サポートされているバージョンのリストを確認してください。
始動ディスク・エラー	処置
<i>Boot Diskette</i> および <i>Startup Diskette</i> を挿入するようにメッセージが表示される。	<p>このディスクは、以前にリリースされていた、ブート可能な CD-ROM ドライブを装備していない PC Server モデルで <i>ServerGuide</i> を使用する場合にのみ必要です。</p> <ol style="list-style-type: none"><li><i>Boot Diskette</i> と <i>Startup Diskette</i> がない場合は、<i>新しい Netfinity</i> サーバーで <i>ServerGuide</i> を実行し、Diskette Factory から作成します。</li><li><i>Boot Diskette</i> と <i>SoftwareGuide</i> CD を挿入してから、サーバーを再起動します。</li></ol>



---

## Netfinity マネージャー



---

## 第4章 Netfinity マネージャーへようこそ

Netfinity マネージャーは、ネットワーク内のハードウェア・システムを管理する機能を強化する目的で設計された分散アプリケーションのグループです。Netfinity マネージャーは柔軟性のあるモジュラー設計を採用しており、これによりさまざまなシステムの目的に沿ったインストールを可能にしています。このようなインストール構成は、それぞれが一連の Netfinity マネージャー・サービス群を提供しています。これらのサービスによって、機能性の高い多種多様なシステム管理および監視機能をローカルに実行することができます。

Netfinity マネージャーには、優れたハードウェア・システム管理機能があります。たとえば、Netfinity マネージャーまたは Netfinity クライアント・サービスを実行している、ネットワーク上のすべてのシステムへのアクセスなどです。Netfinity マネージャーには、標準 Netfinity クライアント・サービスの他に、両方向ファイルおよびディレクトリー転送 (NetWare 用 Netfinity クライアント・サービスを実行しているシステムでは使用不可)、リモート画面捕そく (スクリーン・ビュー)、およびリモート・コマンドライン・セッション (リモート・セッション) があります。さらに、Netfinity マネージャーによって、システム情報ツール、システム・プロファイル、ソフトウェア・インベントリー、およびシステム・モニターによって収集されたデータを、DB2、Lotus Notes、または SQL に、あるいは Open DataBase Connectivity (ODBC) データベースを介した DB2 にエクスポートすることができます (ODBC エクスポートは、Windows NT システムでのみ利用可能)。また、Netfinity マネージャーによって、一部のサービスをスケジュールされた日時に開始させることができ、システム管理の単純化および自動化を図ることができます。

Netfinity マネージャーには、さらに、2 つの優れた機能があり、これらの機能によって、管理システム・ネットワークに接続されていないシステムから Netfinity マネージャー・システムおよび管理システム・ネットワーク内にあるすべての Netfinity マネージャー・システムにアクセスすることができます。

- シリアル接続制御

シリアル接続制御サービスを使用すると、Netfinity マネージャー・システムのモデムからモデムを装備しているどの Netfinity マネージャー・システムとも接続を確立することができます。これによって、Netfinity マネージャーは、接続したリモート・システムが初めから管理対象のシステム・ネットワークの一部であった場合と同等に、すべての Netfinity マネージャー・サービスを利用できるようになります。

- Netfinity マネージャー (Web 用)

Netfinity マネージャー (Web 用) によって、インターネット接続と WWW ブラウザーをもつ任意のシステムを使用し、インターネットを通じて Netfinity マネージャー・システムにアクセスし、そのシステムをリモート制御することができます。Netfinity マネージャー (Web 用) を用いれば、Netfinity マネージャー・サービスに世界中のどこからでもアクセスし、それを管理することができます。

---

## Netfinity マネージャーによるサーバーの管理

お客様は、ServerGuide に入っている Netfinity マネージャーを、一つのサーバーにのみインストールすることができます。さらに、Netfinity クライアント・サービスの追加インストールを行うこともできます。Netfinity マネージャーを使用して、サーバーの監視および管理を行うには、システム管理コンソールとして使用するネットワーク内のシステム上に Netfinity

マネージャーをインストールしてから、監視および管理したいサーバーに Netfinity クライアント・サービスをインストールします。また、そのネットワーク内の他のシステムに、Netfinity クライアント・サービスの追加コピーをインストールすることもできます。さらに、Netfinity マネージャーと、Netfinity クライアント・サービスの追加ライセンスを IBM 担当員から購入することができます。ライセンス情報は、*CoPilot ApplicationGuide* を使用して Netfinity マネージャーをインストールするときに表示されます。

---

## Netfinity マネージャーの資料

Netfinity マネージャーの全資料は、*CoPilot ApplicationGuide* CD の Netfinity ディレクトリーにあり、オンラインで見ることができます。これらの資料は、Adobe Acrobat 形式 (\*.PDF) で提供されます。資料の詳細については、57ページの第10章、『詳細情報の入手』を参照してください。

---

## ロードマップ

表3 を使用して、Netfinity マネージャーを開始するために必要な情報を見付けてください。

実行する内容	参照箇所
Netfinity マネージャーをインストールする	27ページの第7章、『Netfinity マネージャーのインストール』
インストール・オプションについて調べる。	59ページの付録A、『インストール・オプション』
Netfinity マネージャー・データベース・サポートについて調べる。	33ページの第8章、『Netfinity データベース・サポート』
システム要件について調べる。	21ページの第5章、『システム要件』
Netfinity マネージャーに関する説明を読む。	19ページの第4章、『Netfinity マネージャーへようこそ』
インストール・プログラムを始動する。	25ページの第6章、『インストール・プログラムの始動』
Netfinity マネージャーを始動する。	47ページの第9章、『Netfinity マネージャーの始動』

---

## 第5章 システム要件

Netfinity マネージャーの最小限のシステム要件はオペレーティング・システムによって異なります。

- Netfinity マネージャー (OS/2 版) がインストールされている場合は 『Netfinity マネージャー (OS/2 版) のシステム要件』 を参照してください。
- Netfinity マネージャー (Windows 95 版) がインストールされている場合は 22ページの 『Netfinity マネージャー (Windows 95 版) のシステム要件』 を参照してください。
- Netfinity マネージャー (Windows NT 版) がインストールされている場合は 22ページの 『Netfinity マネージャー (Windows NT 版) のシステム要件』 を参照してください。

---

### Netfinity マネージャー (OS/2 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー (OS/2 版) の最小限のシステム要件は次のとおりです。

- OS/2 バージョン 3.0 またはそれ以降
  - 約 19 MB\* ~ 22 MB のハード・ディスク・スペース (必要なスペースはシステム構成によって異なります)
  - LAN アダプター・カード、および次の通信プロトコルのうちの 1 つ以上
    - IBM TCP/IP (OS/2 版) バージョン 1.2 またはそれ以降のリリース (Netfinity マネージャーの Web 拡張機能を使用する場合に必要です)
    - NetBIOS
- 注: Netfinity マネージャーの NetBIOS 要件は 3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つのネットワーク制御ブロック (NCB) です。
- IPX
  - SNA

Netfinity マネージャーは、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム	サポートされる SNA スタック
OS/2	IBM コミュニケーション・マネージャー/2 バージョン 1.11

- 9600 bps 以上の通信速度のモデム (オプション)

注: シリアル接続制御は、適切にインストールおよび構成されたモデムを備えていないシステムでは機能しません。

---

\* ハード・ディスク・ドライブの容量を示す場合、MB とは約 1000000 バイトを意味しますが、ユーザーがアクセス可能な全容量は操作環境によって異なります。

---

## Netfinity マネージャー (Windows 95 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー (Windows 95 版) の最小限のシステム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows 95
  - 約 17 MB ~ 20 MB のハード・ディスク・スペース (必要なスペースはシステム構成によって異なります)
  - LAN アダプター・カード、および次の通信プロトコルのうちの 1 つ以上
    - TCP/IP (WinSock バージョン 1.1 と互換性があるもの。Netfinity マネージャーの Web 拡張機能を使用する場合に必要です)
    - NetBIOS
- 注: Netfinity マネージャーの NetBIOS 要件は 3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つのネットワーク制御ブロック (NCB) です。
- IPX
  - SNA

Netfinity は、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム	サポートされる SNA スタック
Windows 95	PCOMM 4.1

- 9600 bps 以上の通信速度のモデム (オプション)
- 注: シリアル接続制御は、適切にインストールおよび構成されたモデムを備えていないシステムでは機能しません。

---

## Netfinity マネージャー (Windows NT 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー (Windows NT 版) の最小限のシステム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows NT バージョン 4.0 またはそれ以降
  - 約 17 MB ~ 20 MB のハード・ディスク・スペース (必要なスペースはシステム構成によって異なります)
  - LAN アダプター・カード、および次の通信プロトコルのうちの 1 つ以上
    - TCP/IP (WinSock バージョン 1.1 と互換性があるもの。Netfinity マネージャーの Web 拡張機能を使用する場合に必要です)
    - NetBIOS
- 注: Netfinity マネージャーの NetBIOS 要件は 3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つの Network Control Block (NCB) です。
- IPX
  - SNA

Netfinity は、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム Windows NT	サポートされる SNA スタック Microsoft SNA Server バージョン 2.11 (Service Pack 1 および日付が 01/22/97 以降の WCPIC32.DLL 付き)。 この DLL は Microsoft から入手できます。
-----------------------------	---

注: Netfinity マネージャーを Microsoft SNA Server と共に使用するシステムは、Microsoft SNA Server クライアントが稼働するシステムと通信することはできません。  
Netfinity は、Microsoft SNA Server ソフトウェアの稼働するシステムのサーバー間通信だけをサポートします。ただし、Microsoft SNA Server が稼働する Netfinity システムは、他のサポートされている SNA スタックを使用する Netfinity システムとも通信をすることができます。

- 9600 bps 以上の通信速度のモデム (オプション)

注:

1. シリアル接続制御は、適切にインストールおよび構成されたモデムを備えていないシステムでは機能しません。
2. Windows NT システムを最も効果的に管理するには、Windows NT システム上で Netfinity を (ローカルまたはリモートで) 使用しているユーザーはすべて、そのシステムへの管理者レベルのアクセス権限を持っている必要があります。



## 第6章 インストール・プログラムの始動

Netfinity マネージャーのインストール・プログラムは、OS/2 版 Netfinity マネージャー、Windows 95 版 Netfinity マネージャー、および Windows NT 版 Netfinity マネージャーに共通しています。ただし、インストール・プログラムを始動するプロセスは、オペレーティング・システムによって異なります。

サーバーで Netfinity マネージャーのインストール・プログラムを始動するには、次の手順で行います。

**1** CoPilot ApplicationGuide CD を CD-ROM ドライブに入れます。

**2** 次に説明するオペレーティング・システム別の手順に従います。

- OS/2 Warp Server

Netfinity マネージャー・インストール・プログラムの始動は次の手順で行います。

**a** コマンド・プロンプトから、次のように入力します。

x:

x は CD-ROM ドライブの文字です。この後、**Enter** キーを押します。

**b** SCOS2 と入力し、**Enter** キーを押します。「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが表示されます。

**c** 「使用可能アプリケーション」選択リストから「**IBM Netfinity** マネージャー」を選択します。

注: Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスをインストールするには、「使用可能アプリケーション」選択リストから「**Netfinity** マネージャー用 **Netfinity** クライアント・サービス」を選択します。Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスのインストール・プログラムが始動されたら、*Netfinity MANAGER* クライアント・サービスのユーザーズ・ガイドでインストールの追加説明を参照してください。

**d** 「製品のインストール」をクリックして、インストール・プログラムを始動します。

- Windows NT Server 3.51

**a** 「ファイル」プルダウン・メニューから「名前を指定して実行」を選択します。

**b** コマンドライン・フィールドに x:¥SCW95 と入力し、**Enter** キーを押します。「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが表示されます。

**c** 「使用可能アプリケーション」選択リストから「**IBM Netfinity** マネージャー」を選択します。

注: Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスをインストールするには、「使用可能アプリケーション」選択リストから「**Netfinity** マネージャー用 **Netfinity** クライアント・サービス」を選択します。 Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスのインストール・プログラムが起動されたら、*Netfinity MANAGER* クライアント・サービスのユーザーズ・ガイドでインストールの追加説明を参照してください。

**d** 「製品のインストール」をクリックして、インストール・プログラムを起動します。

- Windows 95 および Windows NT Server 4.0

CoPilot ApplicationGuide CD を CD-ROM ドライブに入れると、「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが自動的に開きます。自動的に開かない場合は、次のようにしてください。

**a** 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択します。

**b** 「名前」フィールドに `x:¥SCW95` と入力し、**Enter** キーを押します。  
「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが表示されます。

**c** 「使用可能アプリケーション」選択リストから「**IBM Netfinity** マネージャー」を選択します。

注: Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスをインストールするには、「使用可能アプリケーション」選択リストから「**Netfinity** マネージャー用 **Netfinity** クライアント・サービス」を選択します。 Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスのインストール・プログラムが起動されたら、*Netfinity MANAGER* クライアント・サービスのユーザーズ・ガイドでインストールの追加説明を参照してください。

**d** 「製品のインストール」をクリックして、インストール・プログラムを起動します。

## 第7章 Netfinity マネージャーのインストール

ここでは、Netfinity マネージャーのインストール方法を説明します。

- 1 Netfinity マネージャー・プログラム・ファイルのコピー元となるドライブとディレクトリーを選択します。

「インストール元ディレクトリー」フィールドに、Netfinity マネージャー・プログラム・ファイルがあるドライブとディレクトリーの名前を入力します。デフォルトは、Netfinity マネージャーのインストール・プログラムが起動されたドライブとディレクトリーです。

- 2 Netfinity マネージャー・ファイルのインストール先のドライブとディレクトリーを選択します。

Netfinity マネージャー・プログラム・ファイルのコピー先となるドライブとディレクトリーの名前を入力します。デフォルトは C:\NETFIN (OS/2 を実行しているシステムの場合)、あるいは C:\WNETFIN (Windows 95 または Windows NT を実行しているシステムの場合) です。



図 1. Netfinity マネージャーのインストール・プログラム

- 3 インストール・オプションを選択します。

Netfinity マネージャーにはインストール構成は 1 つしかありませんが、Netfinity マネージャー・インストール・プログラムにはいくつかのインストール・オプションがあります。各オプションは、この製品の特別な追加機能を使用可能にします。

使用可能なインストール・オプションは次のとおりです。

- システム管理サポート

システムに拡張システム管理サービスをインストールするには、「システム管理サポート」を選択します。このサービスを使用して、IBM システム管理プロセッサおよびアダプターの監視および管理を行います。

重要

システム管理サポートをインストールすると、動的接続マネージャーという名前のシリアル接続制御サービスの拡張版が、シリアル接続制御の代わりにインストールされます。システム管理および動的接続マネージャー・サービスの詳細については、*Netfinity* ライブラリーの *システム管理* を参照してください。

- キャパシティー・マネージャー

システムにキャパシティー管理サービスをインストールするには、「キャパシティー管理」を選択します。キャパシティー管理は、ネットワーク管理者のための使いやすいリソース管理・計画ツールで、これを使用すると、ネットワーク上のすべてのサーバーについてパフォーマンスをリモートで監視することができます。

- リモート・ワークステーション制御

リモート・ワークステーション制御サービスを使用可能にするには、「リモート・ワークステーション制御」を選択します。リモート・ワークステーション制御は、Netfinity マネージャー、または Netfinity クライアント・サービスを実行しているリモート・システムの画面表示を監視または制御するために使用します。

- Update Connector マネージャー (NT 4.0、TCP/IP、および Web ブラウザーが必要)

Netfinity マネージャーをシステムにインストールしていて、IBM 選択サーバーから使用可能となる更新を使用するクライアント・システム上でシステム更新の管理を行うためにそれが使用される場合は、「Update Connector マネージャー (NT 4.0、TCP/IP、および Web ブラウザーが必要)」を選択します。

- WWW 拡張機能 (TCP/IP が必要)

他の Netfinity マネージャー・システムを管理するために使用され、WWW ブラウザーを使用してインターネット上でリモートにアクセスおよび制御されるシステムに Netfinity マネージャーをインストールする場合には、「WWW 拡張機能 (TCP/IP が必要)」を選択します。

#### 4 Netfinity マネージャーをインストールします。

インストール構成が選択されたら、「インストール」を選択します。インストール・プログラムは、インストール構成で必要となるすべてのプログラム・ファイルをコピーします。現在コピーされているファイルの名前と、完了したインストールの割合を表示するウィンドウが表示されます。

注: インストール・プロセスを停止するには、「取り消し」を選択します。

ネットワーク通信ドライバーと、次に挙げる Netfinity マネージャー・サービスがインストールされます。

- アラート・マネージャー
- Alert On LAN 構成 (Windows 95 またはそれ以降、あるいは Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)
- キャパシティー管理 (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)
- クラスタ・マネージャー (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)
- クリティカル・ファイル・モニター
- DMI ブラウザー (DMI サービス・レイヤーが必要)

- ECC メモリー・セットアップ (ECC メモリーが必要)
- イベント・スケジューラー
- ファイル転送
- 電源オン・エラー検出
- 事前障害分析 (PFA 利用可能ハード・ディスク・ドライブが必要)
- プロセス・マネージャー
- RAID マネージャー (RAID アダプターが必要)
- リモート・セッション
- リモート・システム・マネージャー
- リモート・ワークステーション制御
- スクリーン・ビュー
- 安全保護マネージャー
- シリアル接続制御
- サービス構成マネージャー
- サービス・プロセッサ・マネージャー
- サービス・マネージャー
- ソフトウェア・インベントリ
- システム診断マネージャー
- システム情報ツール
- システム・モニター
- システム区画アクセス (システム区画が必要)
- Update Connector マネージャー (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)
- システム・プロファイル
- Web マネージャー構成 (「Web 用 Netfinity マネージャーのインストール」インストール構成が選択されている場合にのみインストールされる)

注: DMI ブラウザー、ECC メモリー・セットアップ、システム区画アクセス、RAID マネージャー、および事前障害分析用のグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) のプログラム・ファイルは、そのシステムに DMI サービス・レイヤー、ECC メモリー、システム区画、RAID アダプター、または PFA 利用可能ディスク・ドライブが装備されているかどうかに関係なく、インストールされます。これによって、ネットワーク管理者が、ネットワーク内の他のシステム上にあるこれらのサービスにリモートでアクセスすることができるようになります。ただし、そのサービスをローカルで使用できるようにする基本プログラムは、必要なハードウェアまたはシステム構成がある場合にだけインストールされます。

## 5 ネットワーク・ドライバーを構成します。

インストール構成によってネットワーク・アクセスが許可されている場合、そのシステムによってサポートされている通信プロトコルに関する情報を入力します。「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウが表示されます。



図 2. Netfinity マネージャー・インストール - 「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウ

次の手順に従って、システムの構成を続行してください。

**a** システム名を入力します。

「システム名」フィールドにシステムの名前を入力します。この名前によって、他の Netfinity マネージャー・ユーザーがネットワーク上のシステムを識別することができます。

**b** ネットワーク・ドライバーを選択します。

「ネットワーク・ドライバー」フィールドに表示される使用可能なネットワーク・ドライバーからどれか 1 つを選択します。選択されたネットワーク・ドライバーによって、システムにネットワーク・アドレスが割り当てられます。

注:

- 1) 「ドライバー使用可能」チェックボックスの下に表示されるフィールドは、選択されたネットワーク・ドライバーに応じて変わります。
- 2) IPX または TCP/IP ネットワーク・ドライバーを使用可能にすると、ネットワーク・アドレスは変更できず、そのアドレスは画面に表示されません。IPX または TCP/IP ネットワーク・ドライバーを選択すると、「ドライバー使用可能」チェックボックスの下にフィールドは表示されません。
- 3) NetBIOS ネットワーク・ドライバーを使用可能にすると、ネットワーク・アドレスが選択され、「ネットワーク・アドレス」フィールドに表示されます。このデフォルトのネットワーク・アドレスを変更する場合は、1 ~ 8 文字の任意のアドレスを入力してください。ただし、このアドレスは、そのシステムに対して固有のものでなければなりません。この NetBIOS アドレスが、ネットワーク上の別のシステムの NetBIOS アドレスと重複していた場合、Netfinity マネージャーが正しく始動できなくなります。
- 4) シリアル Netfinity マネージャー・ドライバーを使用可能にする場合は、そのシステムを識別するために使用する名前を、「固有のマシン・ダイヤルアップ名」フィールドに入力します。この名前は 32 文字までの長さにすることができ、システムに対して固有のものでなければなりません。この名前が固有でない場合、リモートの Netfinity マネージャーユーザーが、シリアル接続制御サービスを使用してそのシステムにアクセスできなくなる場合があります。

**c** ネットワーク・ドライバーを使用可能にします。

必要な情報をすべて入力したら、「ドライバー使用可能」チェックボックスを選択して、始動時にドライバーがアクティブになるようにします。

複数のネットワーク・インターフェースがシステムでサポートされている場合は、ステップ 5b から 5c を繰り返してネットワーク・ドライバーを追加します。

**d** システム・キーワードを指定してシステムを識別します (オプション)。

システム・キーワードを使ってネットワーク上でシステムを識別することによって、リモート・システム・マネージャーの検索プロセスを最大限に活用できます。これらのキーワードは、「システム・キーワード」フィールドに入力します。

**e** Netfinity マネージャー・オプションを選択します (オプション)。

「オプション」ボタンをクリックして「Netfinity マネージャー・オプション」ウィンドウを開きます。「Netfinity マネージャー・オプション」ウィンドウには、Netfinity マネージャーのネットワーク操作に関する特別なオプションが表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- 強制リモート・ログオン

「強制リモート・ログオン」オプションが使用可能になると、システムは、リモート・システムにアクセスしたときに使用したユーザー ID とパスワードの組み合わせを保存することができなくなります。これによって、リモート・システムにアクセスするたびに、手動でログオンする必要があります。

- サービス実行アラート

「サービス実行アラート」オプションを使用可能にすると、Netfinity マネージャー・サービス・マネージャーは、システムにアクセスしているユーザーの Netfinity マネージャー・サービスの 1 つがリモート・ユーザーによって開始されるたびにアラートを生成します。このアラートには、実行されたサービスの名前と、サービスを開始したユーザーに関する情報が含まれます。

- サポート・プログラムの表示

「サポート・プログラムの表示」オプションを使用可能にすると、Netfinity マネージャーのサポート・プログラム (またはネットワーク・インターフェース) が、画面の一番下の最小化アイコンとして (Windows 3.1、または Windows NT 3.51 の場合)、Windows NT 4.0 または Windows 95 のタスクバーの中の最小化アイコンとして、あるいは OS/2 のタスク・リストの中、のどれかの形で表示されるようになります。これによって、ユーザーは Netfinity ネットワーク・インターフェースを遮断できるようになります。Netfinity マネージャーのサポート・プログラムをユーザーから隠しておきたい場合は、このオプションを使用可能にしないでください。

- 画面アクセスにはユーザーの認可が必要

「画面アクセスにはユーザーの認可が必要」オプションを使用可能にすると、ユーザーの許可なしでは、リモートから他のユーザーがそのシステムで「リモート・ワークステーション制御」や「スクリーン・ビュー」を使用できなくなります。このオプションが選択されている場合に、リモートから他のユーザーが上記のサービスのどれかを使用しようとする、デスクトップにウィンドウがポップアップして、リモートから他のユーザーが「リモート

ト・ワークステーション制御」または「スクリーン・ビュー」を使用しようとしていることを警告するとともに、サービスの使用をリモートのユーザーに許可するかどうかを尋ねます。これに対して、Yes または No を選択することができます。15 秒以内に選択をしない場合 (たとえば、このアクセスの試みが行われたときに在席していなかった場合など)、Netfinity は自動的に、リモートから他のユーザーが上記のサービスを使用できないようにします。

使用可能な Netfinity マネージャー・オプションを 1 つ以上実施するには、次の手順で行います。

- 1 「オプション」ボタンをクリックします。
- 2 使用可能にする Netfinity マネージャー・オプションを選択します。
- 3 「保管」ボタンをクリックします。

**f** ネットワーク・タイムアウト値を設定します (オプション)。

「ネットワーク・タイムアウト」フィールドは、Netfinity マネージャーが、応答しないリモート・システムと通信を試みる秒数を表示します。Netfinity マネージャーは、この時間内にそのリモート・システムと接続できない場合、通信の試行を停止します。ネットワーク・タイムアウトのデフォルト設定値は 15 秒です。通常はこのデフォルト設定値を変更する必要はありません。

**g** 構成を保管して続行します。

「保管」を選択し、構成を保管します。その上で、「終了」を選択して続行します。

注: この構成は、「Netfinity マネージャー」フォルダーから「ネットワーク・ドライバ構成」オブジェクトを選択することで、インストール終了後でも変更することができます。

**6** ネットワーク・アクセスのためのシステム構成を終えると、インストール・プログラムはシステム構成ファイルに対して加える必要のある変更のリストを表示し、それらの変更を行うかどうかを尋ねます。たとえば、Netfinity マネージャー (Windows 95 版) をインストールする場合には、インストール・プログラムは CONFIG.SYS ファイルに必要な変更内容のリストを表示します。

「はい」または「いいえ」を選択します。

注: Netfinity マネージャーが正しく作動するために、システム構成に対するこれらの変更を行う必要があります。

- 「はい」を選択すると、システム構成が自動的に変更されます。
- 「いいえ」を選択すると、変更箇所はインストール先ディレクトリー内の CONFIG.NEW (場合によってはそれに加えて AUTOEXEC.NEW) というファイルに保管されます。

**7** これでインストールが完了しました。システム構成の変更を有効にするためにシステムを再起動します。

---

## 第8章 Netfinity データベース・サポート

Netfinity は、大量のシステム固有データを収集し、Netfinity データベースにエクスポートする機能をサポートしています。Netfinity データベースは、DB2、Lotus Notes、または Microsoft SQL を使用して、データベース管理システム上に作成することができます。Microsoft SQL は、ODBC を介してサポートされ、Netfinity マネージャー (OS/2 版、Windows 95 版、または Windows NT 版) を実行するシステムで使用可能です。システムが ODBC をサポートしている場合は、同様に ODBC を介して DB2 データにアクセスおよびエクスポートすることができます。Netfinity マネージャーとともにこれらのデータベースの 1 つまたは複数インストールされると、次に示す Netfinity マネージャー・サービスからデータをエクスポートできるようになります。

- アラート・マネージャー
- ソフトウェア・インベントリ
- システム情報ツール
- システム・プロファイル
- システム・モニター

データベース・エクスポートのサポートをインストールし、構成する方法については、次で説明します。

- DB2 データベース・エクスポートのサポートをインストールする場合は、『DB2 データベースのサポート』を参照してください。
- Lotus Notes データベース・エクスポートのサポートをインストールする場合は、38ページの『Lotus Notes データベースのサポート』を参照してください。
- ODBC データベース・エクスポートのサポートをインストールする場合は、41ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

---

### DB2 データベースのサポート

DB2 データベース・エクスポートのサポートは、Netfinity マネージャーのインストール時に自動的に構成されます。ただし、データベース・システム自体はユーザーが構成する必要があります。データベースの構成方法は、この後に説明します。

ファイルへの生データのダンプ可能です。このダンプはデータベースがなくても実行することができます。

### システム要件

Netfinity マネージャー・データベース・エクスポートの最小限の要件は次のとおりです。

- Netfinity マネージャー (OS/2 版)
  - DB2 クライアント・バージョン (45ページの表4 を参照)
  - DB2 バージョン (45ページの表4 を参照)
- Netfinity マネージャー (Windows 95 版)
  - DB2 クライアント (Windows 95 版) (45ページの表4 を参照)
  - DB2 バージョン (45ページの表4 を参照)
- Netfinity マネージャー (Windows NT 版)

- DB2 クライアント (Windows NT 版) (45ページの表4 を参照)
- DB2 パージョン (45ページの表4 を参照)

**重要 :**

Netfinity マネージャー・データベース・サポートを、サポートされていないバージョンの DB2 または DB2 クライアントを実行するシステムで使用すると、不測の結果を招き、システムが停止するおそれがあります。

一般的な要件とサポートされているプロトコルに関しては、*DB2 Installation Guide* を参照してください。

## データベースのインストールと構成

次に、DB2 データベースのインストールと構成のための手順を説明します。

注: OS/2 を使用する場合は、『OS/2 へのデータベースのインストール』を参照してください。

**1** DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

注: DB2 が始動していない場合は、DB2 データベース・マネージャーを始動してください。

**2** 次のコマンドを入力します。

```
DB2 CREATE databasename ON d
```

ここで *databasename* はデータベースの名前で、*d* はそのデータベースが作成されているドライブです。

**3** Enter キーを押します。

**4** 次に、ODBC データベース・サポートのためにテーブルを構成する必要があります。ODBC 用のデータベースの構成については、42ページの『ODBC データベース構成』を参照してください。また、テーブルの作成については、43ページの『Netfinity テーブルの作成』を参照してください。

**5** 最後に、データベースをバインドする必要があります。データベースのバインドについては、35ページの『データベースの活動化』を参照してください。

### OS/2 へのデータベースのインストール

**1** CD-ROM ドライブに Netfinity マネージャーの CD を挿入します (この例ではドライブ D ですが、ドライブ文字はそれぞれで異なっている可能性があります)。

**2** OS/2 のウィンドウまたは全画面セッションを開きます。

**3** CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

D: と入力して、Enter キーを押します。

**4** OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
NETFINDB CREATE /DBNAME=databasename /DRIVE=d
```

ここで、*databasename* はデータベースの名前で、*d* はそのデータベースが作成されているドライブです。

注: データベースの何らかの部分がすでに存在している場合、ユーティリティー・プログラムはデータベースの欠落している部分だけを作成します。

## 5 Enter キーを押します。

## データベースの活動化

次に、データベースへの接続、バインド、および特権の付与について説明します。

### 1 データベースに接続します。

**a** DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

**b** 次のコマンドを入力します。

```
DB2 CONNECT TO databasename
```

ここで、*databasename* はデータベースのインストール手順で指定されたデータベースの名前です。

**c** Enter キーを押します。

### 2 パッケージとデータベースをバインドします。

バインド・ファイルに保管する SQL ステートメントを準備し、パッケージをデータベースに保管するには、Netfinity マネージャー (OS/2 版)、Netfinity マネージャー (Windows 95 版)、Netfinity マネージャー (Windows NT 版) がインストールされているシステムから、次の手順を実行します。

**a** DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

**b** DB2 コマンド・ウィンドウで、次のコマンドを入力します。

```
DB2 BIND x:¥directory¥DB2SQLC0.bnd
```

ここで、*x:¥directory* は、Netfinity マネージャーがインストールされているドライブとディレクトリーの名前です。

**c** Enter キーを押します。

## データベース特権の付与および取り消し

次に、データベース特権の付与および取り消しについて説明します。

注: OS/2 を使用する場合は、36ページの『OS/2 システムでのデータベース特権』を参照してください。

### 1 DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

注:

- a. DB2 が始動していない場合は、DB2 データベース・マネージャーを始動してください。
- b. DB2 Netfinity データベースに接続していない場合は、データベースに接続してください。

## 2 次のコマンドを入力します。

```
DB2 GRANT privilegecode ON TABLE tablename TO userid
```

- *privilegecode* は、次の特権コードのどれかです。
  - ALL
  - ALL PRIVILEGES

注: データベースに関するすべての適切な特権 (CONTROL を除く) を付与します。

- ALTER
- CONTROL
- DELETE
- INDEX
- INSERT
- REFERENCES
- SELECT
- UPDATE

- *tablename* は、データベースのインストール時に指定されたテーブルの名前です。Netfinity データベース・テーブル名のリストは、*Netfinity ユーザーズ・ガイド* (付録 H: Netfinity リレーショナル・データベース・テーブル) に記載されています。

注: 特権の付与および取り消しには、Netfinity データベース管理ツールも使用できます。データベース管理ツールの使用については、43ページの『Netfinity テーブルの作成』を参照してください。

- *userid* はアクセスを認可されるユーザー ID です。

## 3 Enter キーを押して、コマンドを実行します。

特権を取り消すには、コマンド行に GRANT の代わりに REVOKE を入力します。

## OS/2 システムでのデータベース特権

- 1 Netfinity マネージャーがデータベースにアクセスできるようにするには、GRANT EXECUTE コマンドを使用します。

OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力し、

```
DB2 GRANT EXECUTE ON PACKAGE NETFIN.DB2SQLC0 TO PUBLIC
```

Enter キーを押します。

注: PUBLIC を指定するか、特定の管理者システムだけを許可することができます。データベースへのアクセスを制限するには、PUBLIC の代わりに、管理用システムの許可名を指定します。

- 2 データベースから現行ユーザーを切り離すには、CONNECT RESET コマンドを使用します。

OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力し、

```
DB2 CONNECT RESET
```

**Enter** キーを押します。

- 3 データベース特権を付与する (または取り消す) には、NETFINDB GRANT コマンドを使用します。

OS/2 でのテーブル特権の付与または取り消しを行うには、次のようにします。

- a** CD-ROM ドライブに Netfinity マネージャーの CD を挿入します (この例ではドライブ D ですが、ドライブ文字はそれぞれで異なっている可能性があります)。

- b** CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

D: と入力して、**Enter** キーを押します。

- c** 次のコマンドを入力します。

```
NETFINDB GRANT /ID=id PUBLIC /DBNAME=databasename /PRIV=privilegecode
```

- *id* はアクセスを認可されるユーザー ID です。
- *databasename* は NETFINDB 実行中に指定されたデータベースの名前です。
- *privilegecode* は、次の特権コードのどれかです。
  - ALL
  - ALTER
  - CONTROL
  - DELETE
  - INDEX
  - INSERT
  - REFERENCES
  - SELECT
  - UPDATE

- d** **Enter** キーを押して、コマンドを実行します。

注: PUBLIC を使用するか、特定の ID またはグループ名だけを許可することができます。Netfinity マネージャー更新プログラムは DB2SQLC0 パッケージを使用し、特定のテーブル特権を必要としません。

特権を取り消すには、コマンド行に GRANT の代わりに REVOKE を入力します。

DB2 で使用するための ODBC を介するデータのエクスポートを中止するように Netfinity を構成する場合は、41ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

### 管理者用システム内のデータベースのカタログ

管理者がリモート・データベースを使用している場合は、データベースが置かれているノードをカタログしてから、そのノードに対してそのデータベースをカタログします。

この手順が完了すると、Netfinity マネージャー・データベースの名前が、「システム情報ツール」の「データベース選択」ウィンドウに表示されます。

## データベースの削除

次に、データベースを削除する方法について説明します。

注: OS/2 を使用する場合は、『OS/2 でのデータベースの削除』を参照してください。

### 1 DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

注: DB2 が始動していない場合は、DB2 データベース・マネージャーを始動してください。

### 2 次を入力します。

```
DB2 DROP DATABASE databasename
```

ここで *databasename* は、データベースのインストール時に指定されたデータベースの名前です。

### 3 Enter キーを押します。

## OS/2 でのデータベースの削除

### 1 データベース・サーバーの CD-ROM ドライブに Netfinity マネージャー CD を挿入します (この例では CD-ROM ドライブは E です)。

### 2 OS/2 のウィンドウまたは全画面セッションを開きます。

### 3 CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

E: と入力し、Enter キーを押します。

### 4 OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
NETFINDB DELETE /DBNAME=databasename
```

ここで、*databasename* は NETFINDB 実行中に指定されたデータベースの名前です。

### 5 Enter キーを押します。

DB2 上で使用するための ODBC を介するデータのエクスポートを中止するように Netfinity を構成する場合は、41ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

---

## Lotus Notes データベースのサポート

Netfinity マネージャーが、システム・データを Lotus Notes データベースにエクスポートできるようにするには、次の手順を行う必要があります。

### 1 Netfinity データベース・テンプレートを Lotus Notes サーバーにインストールします。

2 Netfinity マネージャーが Lotus Notes サーバーにエクスポートできるようにします。

Lotus Notes データベース・テンプレートのインストール方法と、Netfinity マネージャーを Lotus Notes データベースにエクスポートできるようにする方法については、この後に説明します。

## システム要件

Netfinity マネージャー Lotus Notes データベース・エクスポートの最小限のシステム要件は次のとおりです。

- Lotus Notes (45ページの表4 を参照)
- Lotus Notes クライアント (45ページの表4 を参照)

一般的なシステム要件およびサポートされている通信プロトコルについては、*Notes Administrator's Guide* を参照してください。

## データベースのインストール

Netfinity マネージャーが、Lotus Notes データベースにシステム・データをエクスポートできるようにするには、Netfinity データベース・テンプレートを Lotus Notes サーバーにインストールします。Netfinity マネージャーのインストール時に、Lotus Notes データベース・テンプレート・ファイル (NETFINDB.NTF) が Netfinity マネージャー・プログラム・ライブラリーにコピーされます。データベース・テンプレートを Lotus Notes サーバーにインストールする手順は、次のとおりです。

- 1 Netfinity プログラムのディレクトリーから、Lotus Notes サーバー上の Notes データ・ディレクトリーに NETFINDB.NTF をコピーします。
- 2 そのサーバーで Lotus Notes を始動します。
- 3 Notes の「ファイル」プルダウン・メニューから「データベースの新規作成」を選択します。  
「データベースの新規作成」ウィンドウがオープンします。
- 4 「テンプレート」選択リストから「**Netfinity** データベース」を選択します。
- 5 「テンプレートを引き継いで設計」チェック・ボックスを選択します。  
これを選択することで、Netfinity マネージャーの将来のリリースにおける変更を Netfinity マネージャー・データベースに自動的に適用できるようになります。
- 6 「サーバー」選択リストから「ローカル」を選択します。  
注: リモート・サーバーにデータベースをインストールする場合には、「サーバー」リストからそのリモート・サーバーの名前を選択します。
- 7 「ファイル名」フィールドに次のように入力します。  
NETFINDB.NSF
- 8 「データベース名」フィールドに次を入力します。  
Netfinity Database

- 9 「新規」を選択して、データベースを作成し、「データベースの新規作成」ウィンドウを閉じます。
- 10 「Lotus Notes」ワークスペースから「Netfinity データベース」アイコンを選択します。
- 11 「ファイル」プルダウン・メニューから「データベースの管理」を選択します。
- 12 「データベースの管理」プルダウン・メニューから「アクセス制御」を選択します。
- 13 このデータベースにデータをエクスポートするすべての Netfinity マネージャー・システムについて、アクセス・レベルを「編集者」に設定します。
- 14 「文書を削除できる」チェックボックスを選択します。
- 15 「了解」を選択します。

Lotus Notes データベースをインストールしたあとで、Netfinity マネージャー・システムが Lotus Notes サーバーにエクスポートできるようにします。

- Netfinity マネージャー・システムが Netfinity マネージャー (OS/2 版) を実行している場合は、Lotus Notes のディレクトリーが CONFIG.SYS ファイルの LIBPATH、PATH、および DPATH ステートメントに含まれていることを確認してください。これらのステートメントに Lotus Notes のディレクトリーが含まれていないと、Lotus Notes データベースにエクスポートすることはできません。
- システムが Netfinity マネージャー (Windows NT 版) を実行している場合は、Windows NT の環境変数に Lotus Notes のディレクトリー・パスが含まれていることを確認してください。
- システムが Netfinity マネージャー (Windows 95 版) を実行している場合は、Lotus Notes のディレクトリーが AUTOEXEC.BAT ファイルの PATH ステートメントに含まれていることを確認してください。このステートメントに Lotus Notes のディレクトリーが含まれていないと、Lotus Notes データベースにエクスポートすることはできません。

以上の手順が完了したら、ブラウズの容易な Lotus Notes データベースに Netfinity マネージャーからのシステム情報をエクスポートできるようになります。

## Netfinity マネージャー Lotus Notes データベースのブラウズ

Netfinity マネージャー Lotus Notes データベースに入っているデータをブラウズするには、次のようにします。

- 1 「Lotus Notes」ワークスペースの「Netfinity データベース」オブジェクトをオープンします。
- 2 「表示」プルダウン・メニューから、Netfinity データベース内のブラウズしたいセクションを選択します。

Netfinity データベースは、特定の Netfinity マネージャー・サービスによって収集されたデータを含む複数のセクションに分割されています。表示するデータを収集しているサービスの名前 (例えば、アラート・ログ など) を選択します。

注: メニュー項目の中にはサブメニューを含むものがあります。

- 3 選択された Netfinity データベースの部分に含まれている情報のリストが、そのウィンドウに表示されます。表示されるデータ項目に関する詳細情報を見たい場合は、そのデータ項目をダブルクリックします。
- 4 データ項目の中には、追加情報を表示するために展開できるものがあります。これらの項目には、「Notes」ウィンドウのデータ項目名の左側の枠にプラス符号 (+) が付いています。データ項目を展開するには、項目を選択し、「表示」プルダウン・メニューから「展開」を選択します。

---

## ODBC データベースのサポート

Netfinity マネージャーは、SQL または DB2 データベース・システムで使用するために、ODBC を介するデータのエクスポートをサポートしています。

注: ODBC データベース・エクスポートは、Netfinity マネージャーを実行しているシステムだけで使用できます。

## システム要件

Netfinity マネージャー ODBC データベース・エクスポートの最小限の要件は次のとおりです。

- Windows NT (45ページの表4 を参照)
  - ODBC (45ページの表4 を参照)
  - 次に示すデータベース管理システム (DBMS - 45ページの表4 を参照) の 1 つまたは複数のための ODBC サポートがあること。
    - IBM DB2
    - Microsoft SQL Server
- Windows 95 (次の場合)
  - ODBC (45ページの表4 を参照)
  - 次に示すデータベース管理システム (DBMS - 45ページの表4 を参照) のうちの 1 つまたは複数のための ODBC サポートがあること。
    - IBM DB2
    - Microsoft SQL Server
- OS/2 (45ページの表4 を参照)
  - Microsoft SQL Server (Microsoft SQL Server に付属して提供される Visigenic ドライバーを使用)
  - または
  - IBM DB2

注: ODBC データベース名の長さが 8 文字を超えてはなりません。

## ODBC データベース構成

ここでは、Netfinity マネージャーが ODBC を使用して Netfinity データベース・テーブルを作成するために完了しておく必要のある手順を説明します。

- 1 NETFIN ID を定義して、Netfinity データベース管理が、NETFIN というテーブル修飾名で Netfinity データベース・テーブルを作成できるようにします。

### 重要

NETFIN は、制限付きのユーザー ID です。使用後に Netfinity データベース管理はこのパスワードを記憶しません。この ID をエクスポート用には使用しないでください。

### 注:

- a. OS/2 および Windows 95 では、NETFIN はデータベースのオーナーであるか、または管理者権限を与えられている必要があります。
- b. Windows NT の場合に、DB2 にエクスポートするときは、NETFIN はデータベースのオーナーであるか、あるいは NT の「ドメイン・ユーザー・マネージャー」か「ユーザー・マネージャー」によってシステム管理者として定義されている必要があります。

Windows NT で、MS SQL にエクスポートするときは、NETFIN はデータベースのオーナーであるか、あるいはテーブル作成権が与えられている必要があります。

- 2 データベースを NETFIN ID との適切な関係で作成します。
- 3 オペレーティング・システムまたはデータベースに付属の ODBC ツールを使用して、データベース ODBC ソースを作成します。
- 4 Windows NT では、ODBC データベースを使用してデータをエクスポートするために、Netfinity サポート・プログラムを構成します。
  - a 「コントロール・パネル」から、「サービス」をオープンします。
  - b 「サービス」フィールドから「Netfinity サポート・プログラム」を選択してから、「スタートアップ」を選択します。
  - c 「スタートアップの種類」ボタン・グループから「自動」を選択します。
  - d 「ログオン」フィールド・グループから、「アカウント」を選択します。「アカウント」フィールドに、ODBC サービスを所有するアカウントのユーザー名を入力します。
  - e 「OK」ボタンをクリックします。

注: イベント・スケジューラーか、あるいはアラート・マネージャーが ODBC を用いてデータをエクスポートする場合には、イベント・スケジューラーがデータをエクスポートしている間、ODBC サービスを所有する ID でログオンし続けている必要があります。

## Netfinity テーブルの作成

Netfinity マネージャーがデータをエクスポートするために必要なテーブルを作成する手順は、次のとおりです。

### 1 「Netfinity データベース管理」アイコンをオープンします。

「Netfinity データベース管理」プログラムは、Netfinity フォルダーまたは Netfinity マネージャー・プログラム・グループ (図3 を参照) の中にあります。このアイコンをオープンして、「Netfinity データベース管理」ウィンドウをオープンします。

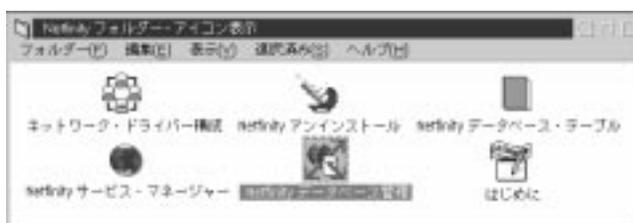


図 3. OS/2 Warp バージョン 4.0 システム上の Netfinity マネージャー・プログラム・グループ

### 2 DBMS を選択します。

「DBMS の選択」リストから、Netfinity がデータのエクスポートに使用する DBMS の名前を選択します。



図 4. 「Netfinity データベース管理」ウィンドウ

### 3 データベース内に Netfinity テーブル・グループを作成するには、「作成」を選択してから「了解」を選択し、「データベース選択」ウィンドウをオープンします。

次に示すテーブル・アクションも使用可能です。

- 削除

データベースから Netfinity テーブル・グループを削除するには、「削除」を選択してから、「了解」を選択し、「データベース選択」ウィンドウをオープンします。

- 付与

指定されたユーザー ID にデータベースへのアクセスを許可します。アクセスを許可するには、次のように行います。

**a** 「付与」を選択します。

**b** 「ユーザー ID」フィールドに、データベースへのアクセスを許可するユーザー ID を入力します。

**c** この ID に付与する特権を選択します。

デフォルトではすべての特権 (挿入、削除、選択、および更新) が選択されています。データベースにデータをエクスポートするには、ユーザー ID はこれらの特権をすべてもっている必要があります。

**d** 「了解」を選択して、「データベース・サーバー」ウィンドウをオープンします。

- 取り消し

指定されたユーザー ID について、データベースへアクセスできないようにします。アクセスを取り消すには、次のように行います。

**a** 「取り消し」を選択します。

**b** 「ユーザー ID」フィールドに、データベースへのアクセスを取り消すユーザー ID を入力します。

**c** この ID から取り消される特権を選択解除します。

デフォルトではすべての特権 (挿入、削除、選択、および更新) が選択されています。データをデータベースにエクスポートするには、ユーザー ID はこれらの特権をすべてもっている必要があります。これらの特権の一部または全部を取り消すことができます。

**d** 「了解」を選択して、「データベース・サーバー」ウィンドウをオープンします。

**4** テーブル・グループを作成するデータベースを選択します。

**5** 「了解」を選択します。

これで、「Netfinity データベース・アクセス」ウィンドウがオープンします。

**6** 「ユーザー ID」フィールドに次のように入力します。

`netfin`

`netfin` は、Netfinity データベースの修飾名です。

7 「パスワード」フィールドに、Netfinity データベースへのアクセスを可能にするパスワードを入力します。

8 「了解」を選択します。

入力した情報の処理が進む間、“テーブル作成中”という状況メッセージが表示されます。操作が完了すると、“要求された処理が完了しました”というメッセージが表示されます。

## サポートおよび保証されるデータベース

次の表は、現行リリースの Netfinity マネージャーの稼働が確認されているデータベースおよびオペレーティング・システムを示しています。

表 4. サポートされる Netfinity データベース、オペレーティング・システムおよびデータベース・クライアントのバージョン別に示しています。

製品	Windows 95	Windows NT 3.51	Windows NT 4.0	OS/2 Warp Connect	OS/2 Warp 4.0
IBM DB2 バージョン 2.1.2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
IBM DB2 Universal Database 5.0	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
ODBC - IBM DB2 バージョン 2.1.2	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー
ODBC - IBM DB2 Universal Database 5.0	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー
ODBC - Microsoft SQL バージョン 6.0	Yes、Microsoft SQL ドライバー	Yes、Microsoft SQL ドライバー	Yes、Microsoft SQL ドライバー	Yes、Visigenic ドライバー バージョン 1.10	No
ODBC - Microsoft SQL バージョン 6.5	Yes、Microsoft SQL ドライバー	Yes、Microsoft SQL ドライバー	Yes、Microsoft SQL ドライバー	No	No
Lotus Notes バージョン 4.5.2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Lotus Notes バージョン 4.5.3a	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Lotus Notes バージョン 4.6	Yes	No	Yes	No	No
Lotus Notes バージョン 4.6a	Yes	No	Yes	No	No
Oracle バージョン 7.3	Yes、Oracle ドライバー バージョン 2.0.3.1.1	Yes、Oracle ドライバー バージョン 2.0.3.1.1	Yes、Oracle ドライバー バージョン 2.0.3.1.1	No	No
Oracle バージョン 8.0	Yes、Oracle ドライバー バージョン 8.0.3.0.0	No	Yes、Oracle ドライバー バージョン 8.0.3.0.0	No	No
Sybase SQL バージョン 11.0	Yes、Sybase ドライバー バージョン 10.0.3T4	Yes、Sybase ドライバー バージョン 10.0.3T4	Yes、Sybase ドライバー バージョン 10.0.3T4	No	No

注: 以上の記述は、Netfinity マネージャー リリース 5.2 に適用されます。



## 第9章 Netfinity マネージャーの始動

Netfinity マネージャーを始動するには、次のようにします。

### 1 Netfinity マネージャーのフォルダーまたはプログラム・グループをオープンします。

Netfinity マネージャーのインストール時に、Netfinity フォルダー (OS/2、Windows 95、または Windows NT 4.0) あるいは Netfinity プログラム・グループ (Windows NT 3.51) がデスクトップに追加されます。Netfinity フォルダーまたはプログラム・グループには、「Netfinity サービス・マネージャー」オブジェクトが含まれています。

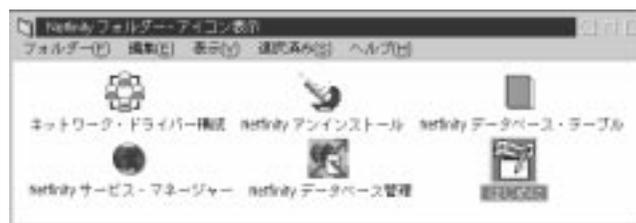


図 5. Netfinity フォルダー

注:

- a. Netfinity フォルダーまたは Netfinity プログラム・グループには、「はじめに」というオブジェクトが入っています。この文書には、お手持ちの資料には記載されていない Netfinity マネージャーに関する情報が含まれています。
- b. Netfinity フォルダーには、ネットワーク・プロトコルとシステム・キーワードの再構成に使用できる「ネットワーク・ドライバ構成」オブジェクトと、Netfinity データベース内のすべてのデータ・テーブルをオンラインで簡単に参照するための「Netfinity データベース・テーブル」オブジェクトも含まれています。Netfinity データベース・サポートの詳細については、33ページの第8章、『Netfinity データベース・サポート』を参照してください。
- c. Netfinity フォルダーには、「Netfinity データベース管理」オブジェクトがあり、この「Netfinity データベース管理」を使用すると、Netfinity データベース・サポートを構成することができます。データベース管理の詳細については、*Netfinity* マネージャー クイック・ガイドの“ODBC データベース・サポート”を参照してください。

### 2 Netfinity サービス・マネージャーを始動します。

Netfinity サービス・マネージャーを始動するには、「Netfinity サービス・マネージャー」オブジェクトをダブルクリックします。

---

## Netfinity サービス・マネージャー

システムでサポートされるすべての Netfinity サービスは、「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウから始動できます。使用可能なサービスは、インストール時に選択したインストール構成によって異なります。



図 6. Netfinity サービス・マネージャー

「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウに表示される Netfinity サービスのどれかを始動するには、そのサービス・プログラムのアイコンをダブルクリックします。リモート・システムの Netfinity サービスを始動するには、リモート・システム・マネージャー・サービスを使用します。

## Netfinity サービスの説明

各 Netfinity サービスは、基本プログラムとグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) で構成されます。サービス基本プログラムは、リモートの Netfinity マネージャーから個々のサービスにアクセスすることを可能にしますが、ローカル・アクセスには対応していません。サービス GUI をそれぞれ対応する基本プログラムと一緒に使用することによって、ユーザーはサービスにアクセスすることができます。

一部のサービスは、特別のシステム構成を備えたシステムだけで利用することによって、このようなサービスには次のものがあります。

- Alert On LAN 構成 (Windows 95 またはそれ以降、あるいは Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ使用可能)
- キャパシティー管理 (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ使用可能)
- クラスタ・マネージャー (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ使用可能)
- DMI ブラウザー (DMI サービス・レイヤーが必要)
- ECC メモリー・セットアップ (ECC メモリーが必要)
- 事前障害分析 (PFA 利用可能ハード・ディスクが必要)
- RAID マネージャー (RAID ハード・ディスク・サブシステムが必要)
- システム区画アクセス (システム区画が組み込まれていることが必要)

- 更新コネクタ・マネージャー (Windows NT 4.0 またはそれ以上を実行するシステムでのみ使用可能)

各 Netfinity サービスについて、次に簡単に説明します。これらの各サービスの詳しい使用方は、*Netfinity Manager ユーザーズ・ガイド* のそれぞれのサービスごとの章に記載されています。

## システム管理

システム管理では、お持ちの IBM PC サーバー・システム管理アダプター、Netfinity システム管理 PCI アダプター、または Netfinity システム管理プロセッサで使用可能になる、最大の機能性を実現します。システム管理サービスでは、システム管理イベント (たとえば、POST、ローダー、およびオペレーティング・システムのタイムアウトまたは重大な温度、電圧、および損傷のアラートなど) を構成することができます。これらのイベントのどれかが発生した場合に、モデムまたは Netfinity マネージャー・システムを使用して、自動的に他の Netfinity マネージャー・システムまたは数値または英数字ページャーに Netfinity アラートを転送するよう構成することができます。

## アラート・マネージャー

アラート・マネージャーは、アプリケーションが生成したアラートを受信し、処理することのできる拡張可能な機能です。アラートに対応して、さまざまなアクションをとることができます。アクションの例としては、アラートの記録、ユーザーへの通知、別のシステムへのアラートの転送、プログラムの実行、WAV ファイルの再生 (マルチメディア・システムだけで使用可能)、SNMP アラート・メッセージの生成、デジタル・ページャー・サービスへのダイヤル・アウト (モデム付きのシステムだけで使用可能)、アプリケーション定義のアクションの実行などが挙げられます。ユーザーは、高度な柔軟性をもつアクション管理インターフェースを使って、アクションを定義することができます。

さらに、アラート・マネージャーで受信したすべてのアラートは、広範囲にわたる詳細なログとして保管されます。ログから入手可能な情報には、アラートを受信した日付と時刻、タイプと重大度、アラートを生成したアプリケーションの ID、アラート・マネージャーが生成したテキストやアラート・マネージャーがとったアクションなどが含まれます。アラートは、個々に、または複数個同時にログから選択して、将来の参照用に印刷したり、問題の解決後にログから削除したりできます。このサービスは、スタンドアロンおよびネットワークのどちらでも使用することができます。

## Alert On LAN 構成

Alert on LAN 構成サービスは、Alert on LAN が使用可能なシステムのモニター・オプションをローカルまたはリモートで構成する場合に使用します。Alert on LAN 機能のあるシステムでは、システムに関する重大な事態の情報を提供します。このデータは、TCP/IP を使用してハードウェアまたはソフトウェアによって (現在システムの電源が入っているかどうかによって異なります) 報告されます。

## キャパシティー管理

キャパシティー管理は、ネットワーク管理者のための使いやすいリソース管理・計画ツールで、これを使用すると、ネットワーク上のすべてのサーバーについてパフォーマンスをリモートで監視することができます。

## クラスター・マネージャー

クラスター・マネージャーは、Microsoft Cluster Server (MSCS) 管理コンソールのクラスター管理機能 (Microsoft Windows NT バージョン 4.0 Enterprise Edition に組み込まれている) を拡張する目的で設計された、強力なアプリケーションです。クラスター・マネージャーは、強力な MSCS を土台にして、ネットワーク上でクラスター化されているシステムを迅速、かつ、容易に監視および管理することを可能にする統合グラフィカル・インターフェースを提供します。このサービスが使用できるのは、Windows NT Workstation 4.0 が稼働しているシステムの場合だけです。

## クリティカル・ファイル・モニター

クリティカル・ファイル・モニターを使用すると、システム上の重要なシステム・ファイルが削除されたり変更されたとき、警告を受けることができます。クリティカル・ファイル・モニターを使用すると、重要なシステム・ファイル (たとえば、CONFIG.SYS ファイルなど) の日付、時刻、サイズが変更された場合や、ファイルが削除または作成された場合に、Netfinity アラートの生成が簡単になります。また、クリティカル・ファイル・モニターを使用すると、Netfinity システムに存在しているすべてのファイルを監視することができます。

## DMI ブラウザー

DMI ブラウザーを使用すると、システムにインストールまたは接続されている DMI 準拠のハードウェア製品とソフトウェア製品についての情報を調べることができます。

## ECC メモリー・セットアップ

ECC メモリー・セットアップを使用すると、ECC メモリーのシングル・ビット・エラーを監視し、エラーが検出されると ECC メモリーを自動的に修正します。また、シングル・ビット・エラーの回数をカウントし、ECC シングル・ビット・エラーのしきい値を超えた場合に、マスク不能割り込み (NMI) を行わせるためのシングル・ビット・エラーしきい値を設定することもできます。このサービスは、ECC メモリー搭載のシステムであれば、スタンドアロンでも、ネットワークでも使用することができます。

## イベント・スケジューラー

イベント・スケジューラーを使用すると、多くの Netfinity マネージャー・サービスを自動化することができます。イベント・スケジューラーによって、ネットワーク上のすべての Netfinity マネージャー・システムで、システム情報ツール、システム・プロファイル、およびソフトウェア・インベントリ・データの自動収集とエクスポート、ファイルの配布または削除、システムの再始動、コマンドの実行、およびシステム区画へのアクセスと管理を行うことができます。スケジュールされたイベントは 1 回のみ実行するか、あるいはユーザーが定義したスケジュールに従って実行することができます。

## ファイル転送

ファイル転送サービスを使用すると、ネットワーク上のリモート Netfinity マネージャー・システムとの間のファイルまたはディレクトリ全体の送受信や削除が簡単に実行することができます。

## 電源オン・エラー検出

電源オン・エラー検出サービスは、リモート Netfinity マネージャー・システムの起動時に問題が発生すると、ただちに警告を発し、ユーザーが問題に迅速に対応してシステムダウンの時間を最小限に抑えることができます。

## 事前障害分析

事前障害分析 (PFA) サービスを使用すると、PFA 利用可能ハード・ディスク・ドライブを継続して監視および管理することができます。PFA 利用可能ハード・ディスク・ドライブは、ドライブの問題や損傷を、それらが発生する前に検出したり予測したりできるようにハードウェアが設計されているので、データ損失やシステム・ダウンを防ぐために役立てることができます。

## プロセス・マネージャー

プロセス・マネージャーを使用すると、システム上で現在アクティブなすべてのプロセスに関する詳しい情報を表示することができます。また、プロセスが開始または停止した場合、あるいは、システムの始動後、指定された時間内にプロセスを開始できなかった場合に、プロセスを停止または開始したり、Netfinity マネージャー・アラートを生成することもできます。

## RAID マネージャー

RAID マネージャー・サービスを使用すると、保守のために RAID システムをオフラインにすることなく、RAID (Redundant Arrays of Independent Disk) アダプターおよび RAID アレイを監視、管理、構成することができます。RAID マネージャーは、システムの RAID アレイと RAID アダプターに関するデータの収集、障害のあるドライブの再構成、論理ドライブの追加または削除、データの保全性のテストの実行およびその他のさまざまな RAID システムのタスクに使用します。このサービスは、サポートされている RAID アダプターを備えたシステムであれば、スタンドアロンでも、ネットワークでも使用することができます。

## リモート・セッション

リモート・セッションを使用すると、リモートの Netfinity マネージャー・システムとの間で完全にアクティブなコマンド・セッションを確立することができます。

## リモート・システム・マネージャー

リモート・システム・マネージャーを使用すると、ネットワーク内の Netfinity マネージャー・システムにインストールされている任意の Netfinity マネージャー・サービスにアクセスし、管理することができます。ネットワーク上の Netfinity マネージャー・システムは、自動検索機能を使用して自動的な更新が可能な、管理の簡単な論理グループに編成することができます。

## リモート・ワークステーション制御

リモート・ワークステーション制御を使用すると、Netfinity マネージャー (または Netfinity クライアント・サービス) を実行しているリモート・システムのスクリーン表示を監視および制御することができます。別の Netfinity マネージャー・システムとのリモート・ワークステーション制御セッションを開始すると、そのリモート・システムのディスプレイ上に表示されるイベントの受動的な監視、またはそのリモート・システムのデスクトップの能動的な制御を行うことができます。リモート・ワークステーション制御セッションを開始すると、システムに入力されるすべてのマウスのクリックおよびキー入力が入力されたリモート・システムに自動

的に渡されます。リモート・ワークステーション制御を使用して、リモートからのプログラムの起動、ウィンドウのオープンおよびクローズ、コマンド入力などの操作ができます。

## スクリーン・ビュー

スクリーン・ビュー・サービスを使用すると、リモート Netfinity マネージャー・システムのグラフィック画面の“スナップショット”をとり、ローカルの画面上に表示することができます。これらのスナップショットは、ビットマップとして保管し、後で参照することができます。

## 安全保護マネージャー

安全保護マネージャーを使用すると、ユーザーの Netfinity マネージャー・サービスの一部またはすべてに無許可のアクセスが行われないようにすることができます。このサービスは、着信ユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用するもので、ネットワーク機能だけで使用できます。

## シリアル接続制御

シリアル接続制御サービスを使用すると、Netfinity マネージャーを実行するリモート・システムから、電話回線とモデムを介して、システムにアクセスすることができます。また、シリアル接続制御サービスによって、ネットワークに接続されていなくても、Netfinity マネージャーのすぐれたリモート・システム・アクセス機能、監視機能、および管理機能が利用できます。

注： シリアル接続制御サービスを使用するには、少なくとも 9600 bps をサポートするモデムがシステムに正しくインストールされ、構成されている **必要があります**。

### 重要

拡張システム管理サポートをインストールすると、動的接続マネージャーという名前のシリアル接続制御サービスが、シリアル接続制御の代わりにインストールされます。拡張システム管理および動的接続マネージャー・サービスの詳細については、このサーバー・ライブラリーの *Advanced System Management Information* セクションを参照してください。

## サービス構成マネージャー

サービス構成マネージャーを使用すると、選択したシステムの Netfinity サービスの構成を、サービス構成ファイル (SCF) に保管することができます。SCF ファイルを作成すると、イベント・スケジューラーでそれを使用して、構成を同じシステムに戻して復元したり、それを (イベント・スケジューラーと共に) 使用して、選択した同様のシステムに構成を伝送することもできます。

## 拡張システム管理

拡張システム管理によって、システムの拡張システム管理アダプターの数多くの機能を構成し、監視することができます。このサービスを使用すると、リモート・システムの拡張システム管理アダプターをダイヤルアウトしたり、直接アクセスや制御したりできるようになります。また、拡張システム管理サービスでは、拡張システム管理アダプター・イベント (たとえば、POST、ローダー、および O/S のタイムアウト、重大な温度、電圧、および損傷のアラート、予備電源機構の障害など) を構成することができます。

## ソフトウェア・インベントリー

ソフトウェア・インベントリーを使用すると、システムにインストールされているすべてのアプリケーション・プログラムのインストール状況の保守を簡単に行うためのソフトウェア製品辞書を作成、管理することができます。

## システム診断マネージャー

システム診断マネージャーを使用すると、ROM ベースの診断をサポートしているシステムに対して、各種の診断タスクを開始することができます。以前に実行したすべての診断セッションの結果がシステムに保存されているので、システム診断マネージャーを使用してこれを調べることができ、システムの問題の診断および解決に役立ちます。

## システム情報ツール

システム情報ツールを使用すると、システムのハードウェアおよびソフトウェアの構成の詳細情報を素早く簡単に入手することができます。システム情報ツールは、ほとんどすべてのコンピューターに関する情報を収集しますが、IBM のコンピューターでこのサービスを使用すると特に詳細な情報が得られます。このサービスは、スタンドアロンおよびネットワークのどちらでも使用することができます。

## システム・モニター

システム・モニターを使用すると、プロセッサの使用率、ディスク・スペースの使用率、ECC メモリー・エラーなど、システム内の複数の構成要素の活動を簡単に図式化して監視することができます。これらの便利なモニターは、画面上から消去することも、サイズを変更することも可能であるため、常に必要なモニターだけを表示しておくことができます。システム・モニターのしきい値マネージャーを使用すると、監視対象の構成要素にしきい値レベルを設定することができます。このしきい値を超えると、ユーザーが構成したアラートが生成されます。

データは、システムの始動時から継続的に収集されます。高精度なデータ処理技法により、個々の値に重みが付けられて、複数の並行するサンプルの平均値が算出され、長時間のシステム活動を正確に反映する値として記録されます。この技法を使用すると、膨大なデータ・ファイルを作成することなくシステムの活動記録を維持できます。このサービスは、スタンドアロンおよびネットワークのどちらでも使用することができます。

## システム区画アクセス

システム区画アクセスを使用すると、ローカルおよびリモートの両方で、システム区画ファイルの処理を大幅に簡略化することができます。システム区画にある個々のファイルやディレクトリー全体の名前を変更したり、削除したりすることが可能です。個々のファイルについては、名前の変更、削除、およびシステム区画へのコピーを行えます。また、区画全体のバックアップをとったり、復元したり、削除したりすることもできます。このサービスは、システム区画を備えたシステムであれば、スタンドアロンでもネットワークでも使用できます。

## システム・プロファイル

システム・プロファイルは、特定のユーザーまたはシステムに関するデータが記録されている便利なノートの働きをします。このノートには、氏名、住所、オフィスの部屋番号や位置、および電話番号などの広範囲なユーザー固有のデータを記入するための定義済みフィールドが多数あります。また、システム・プロファイルには、モデル、シリアル・ナンバー、購入日など、システム情報ツールでは使用することのできないシステム固有のデータを記入するための定義済みフィールドも多数含まれています。また、ユーザーが定義できる「その

他」フィールドも多く含まれ、ユーザーや管理者に必要なデータを保持するために使うことができます。

## Update Connector マネージャー

Update Connector マネージャーを使用して、お持ちのクライアント・システムで使用可能なさまざまな更新に関する情報を迅速かつ簡単に収集することができます。使用可能な更新がわかったら、更新コネクタ・マネージャーを使用して、そのシステムに対してリモートから更新を行います。更新は個々のシステムにも適用できますし、複数のシステムに複数の更新を適用することもできますが、いずれの場合も Netfinity マネージャーから実行します。また、Update Connector マネージャーを使用して、以前に適用された更新を除去することもできます。さらに、Update Connector マネージャーには、自動的および定期的に更新を検索、適用、または除去するために使用するスケジューラーも組み込まれています。

## Web マネージャー構成

Web マネージャー構成を使用すると、Netfinity マネージャー (Web 用) へのアクセスを、ユーザーが指定した TCP/IP ホスト、またはある範囲内のアドレスをもつ TCP/IP ホストに制限することができます。また、Netfinity マネージャー (Web 用) を使用可能または使用禁止にしたり、Netfinity マネージャー Web サーバー機能が使用する TCP/IP のポート番号を指定したりすることもできます。

---

## OS/2 システムでの Netfinity 始動の遅延

Netfinity ネットワーク・インターフェース (NETFBASE.EXE) の自動始動を遅らせた方が都合が良い場合があります。たとえば、開始時刻に制約のあるアプリケーションを正しく始動させたり、ネットワーク操作を開始する前にシステムを完全に構成したりするような場合です。NETFBASE.EXE には、NETFBASE.EXE の始動待機時間の秒数を指定するためのパラメーター (WAIT) があります。

Netfinity マネージャーのインストール時には、「Netfinity ネットワーク・インターフェース」オブジェクトは始動フォルダーに入れられています。指定された秒数の間、始動前に待機するように Netfinity マネージャーを構成するには、次のとおりになります。

- 1 Netfinity ネットワーク・インターフェースが実行されている場合は、遮断します。
- 2 「始動」フォルダーをオープンします。
- 3 マウスの右ボタンを使用して、「Netfinity ネットワーク・インターフェース」オブジェクトをクリックすると、Netfinity ネットワーク・インターフェースのコンテキスト・メニューがオープンします。
- 4 「設定」を選択して、Netfinity ネットワーク・インターフェースの「設定」ノートブックをオープンします。
- 5 「パラメーター」フィールドに次のように入力します。

WAIT:x

x には、Netfinity ネットワーク・インターフェースが始動前に待機する秒数を指定します。

**6** Netfinity ネットワーク・インターフェースの「設定」ノートブックをクローズします。

WAIT パラメーターを  $x$  に設定すると、システムを始動するたびに、Netfinity ネットワーク・インターフェースは  $x$  秒間待機してから始動します。

注: この機能が使用できるのは、OS/2 が稼働しているシステムの場合だけです。



## 第10章 詳細情報の入手

Netfinity マネージャー (および Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービス) の詳しい使用法は、Adobe Acrobat 形式で、CoPilot ApplicationGuide CD の NETFIN¥JA¥DOCS サブディレクトリーに入っています。

DOCS サブディレクトリーには、次のファイルが入っています。

ファイル名	ドキュメント・ファイル	説明
DOCSREAD.ME	DOCSREAD.ME	このディレクトリーに含まれている Adobe Acrobat 読み取り可能 PDF ファイルのそれぞれについての簡単な説明を含むテキスト・ファイル。
NFMGRQB.PDF	Netfinity Manager Quick Beginnings	Netfinity マネージャーのインストールおよびセットアップ情報。
NFMGRUG.PDF	Netfinity Manager User's Guide	Netfinity Manager の詳しい使用方法。
NFMGRCR.PDF	Netfinity Manager Command Reference	Netfinity マネージャーのコマンドライン機能の詳細情報。
NFCSVCQB.PDF	Client Services for Netfinity Manager Quick Beginnings	Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスのインストールおよびセットアップ情報。
NFSVCUG.PDF	Client Services for Netfinity Manager User's Guide	Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスの詳しい使用方法。
NFSVCNW.PDF	Client Services for Netfinity Manager for NetWare User's Guide	Netfinity マネージャー (NetWare 版) 用 Netfinity クライアント・サービスのインストール、セットアップ、および使用に関する情報。
ASMUPDT.PDF	Advanced System Management Information	拡張システム管理サービスおよび動的接続マネージャー・サービスに関する更新済み情報。これらのサービスは、このバージョンの Netfinity マネージャー 5.2 に組み込まれています。



---

## 付録A. インストール・オプション

ここでは、Netfinity マネージャーの自動インストールの実行方法と、Netfinity マネージャーのカスタマイズされたインストールの方法を説明します。

---

### 自動インストール

システムに CID 利用可能 (Customization, Installation, and Distribution) のソフトウェア配布管理プログラム・ユーティリティー (IBM ネットワーク・トランスポート・サービス/2 に組み込まれている LAN CID など) がある場合、Netfinity インストール・プログラムのコマンド・ライン・パラメーターおよび応答ファイルを使用して、ネットワーク内のシステムに Netfinity マネージャーをインストールすることができます。インストールには、最初にインストール元ディレクトリーを作成する必要があります。

Netfinity クライアント・サービスをインストールするためのインストール元ディレクトリーを作成するには、次のようにします。

- 1 プログラム・ファイルのインストール元ディレクトリーを作成します。
- 2 CD-ROM 上の *Netfinity* クライアント・サービスのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、Netfinity クライアント・サービス (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成するときは、OS/2 版 *Netfinity* クライアント・サービスのディレクトリーからすべてのファイルを、作成されたディレクトリーにコピーします。

Netfinity マネージャーをインストールするためのインストール元ディレクトリーを作成するには、次のようにします。

- 1 プログラム・ファイル用のインストール元ディレクトリーを作成します。

**重要:**

必ずクライアント・サービスのソース・ファイルをコピーしてからマネージャーのソース・ファイルをコピーしてください。これは、マネージャーのディレクトリーに、クライアント・サービスのディレクトリーのファイルを上書きしてしまうファイルがいくつか含まれているためです。このディレクトリーからは、Netfinity マネージャーのインストールしかできません。

- 2 クライアント・サービスのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、Netfinity マネージャー・サービス (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成するときは、OS/2 版 *Netfinity* クライアント・サービスのディレクトリーからすべてのファイルをコピーします。

- 3 マネージャーのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、Netfinity マネージャー (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成するときは、OS/2 版 *Netfinity* マネージャーのディレクトリーからすべてのファイルをコピーします。

インストール元ディレクトリーを作成した後、応答ファイルと、Netfinity マネージャーのインストール・プログラムのコマンドライン・パラメーターを使用します。Netfinity マネージャーのインストール・プログラムは、次のコマンドライン・パラメーターをサポートしています。

**/R:** *drive+path+filename* 応答ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を指定します。組み込まれるパラメーターに注釈を付けた応答ファイルの例として NETFBASE.RSP ファイル (Netfinity マネージャーがインストールされているディレクトリーにあります) を参照してください。

**/S:** *drive+path* インストール 元 のドライブとパスを指定します。これは CD-ROM からファイルをコピーした際のコピー先ディレクトリーです。

**/T:** *drive* インストール 先 のドライブを指定します。デフォルトは現行の始動ドライブです。

**/TU:** *drive+path* 更新する CONFIG.SYS ファイルのドライブとパスを指定します。デフォルトでは、/T パラメーターで指定されたドライブ (または始動ドライブ) のルート・ディレクトリー内の CONFIG.SYS が変更されるようになっていきます。このパラメーターは、応答ファイルの *ChangeConfig* パラメーターが「FALSE」の場合には無視されます。

たとえば、次の行は、

```
NETFINST /R:NETFBASE.RSP /S:Y:¥NETFIN  
/T:C /TU:D:¥
```

応答ファイル NETFBASE.RSP 内のオプションを使用して、ディレクトリー Y:¥NETFIN からドライブ C: (ファイルのインストール先のディレクトリーは応答ファイルからとられます) に Netfinity マネージャーをインストールし、さらに、D:¥ディレクトリー内の CONFIG.SYS ファイルを変更します。

注: CID を使用可能なソフトウェア配布管理プログラムの使用方法については、個々の CID 使用可能製品に付属の資料を参照してください。

---

## カスタマイズしたインストール

安全保護を考慮すると、すべてのユーザーがすべてのサービスへアクセスする必要があるとは限りません。ユーザー・アクセスは、一部のサービスをインストールしないようにするカスタマイズしたインストールを作成することによって制限することができます。

カスタマイズしたインストールを作成するには、INSTALL.INI ファイルを編集する必要があります。たとえば、Netfinity マネージャー (Windows 95 版または NT 版) のカスタマイズしたインストールを作成するには、Netfinity マネージャー・ディレクトリーにある INSTALL.INI ファイルを編集します。

INSTALL.INI ファイルには次の線で区切られた 3 つのセクションがあります。

[==]

最初のセクションには、インストール時に選択できるインストール構成が含まれます。選択項目は最大で 8 つです。各選択項目はそれぞれ 2 行ずつです。最初の行は、インストール構成ラジオ・ボタンの隣に表示されるテキストです。もう一方の行は、インストールでこの選択項目が選択されるときにインストールされる、3 番目のセクション内のオプション・リストです。

次に例を示します。

```
;IBM SysMgt Install Script, Version 2 (Do not remove this comment line)
Netfinity Manager Installation [Manager 16900]
    Advanced System Management Support [ServProc 450]
    Capacity Manager Enhancement [CapMgt 5600]
    Remote Workstation Control [RWC 2000]
    World Wide Web Enhancement (TCPIP Required) [WebManager 3000] IsTcpi
[==]
Netfinity Manager CD for Windows 95/NT
[==]
NetFinity Admin
NULL Manager
    CL 0 1 NETFBASE.EXE
    CCL 0 1 NETDOM.INI
    CCL 0 1 NETNODES.INI
    CCL 0 1 INSTALL.BAT
    CCL 0 1 NETFINST.EXE
    CCL 0 1 INSTALL.INI
    CCL 0 1 WININST.HLP
    CL 0 1 APCKINST.DLL
;Screen Capture GUI
;NULL Manager
;    CL 0 1 SAVEG.EXE
;    CL 0 1 SAVEG.HLP
```

この INSTALL.INI は、拡張システム管理、キャパシティー管理、リモート・ワークステーション制御、および Netfinity WWW 拡張機能を同時にインストールする、Netfinity マネージャー・インストール構成を作成します。

2 番目のセクションには、このインストール・スクリプトが使用する CD の名前が含まれません。

3 番目のセクションには、インストール可能なオプションのリストが含まれます。これらは、最初のセクションの選択項目によって選択されるオプションです。これらのオプションには 1 から順に番号が付けられ、オプションが挿入されると、それ以外のすべてのオプションの番号が変わります。各オプションは次の形式をとります。

### オプション名

Dll エントリー・ポイント

    オプション・ファイル

    オプション・ファイル

...

インストール・コマンド

インストール・コマンド

...

### オプション名

インストール・プログラムによる識別用注釈。すべてのオプションにはそれぞれ異なるオプション名が付けられている必要があります。これは識別の目的だけに使用されます。

### Dll エントリー・ポイント

あるオプションがインストール先のシステムで有効かどうかを判断するために使用します。ほとんどの場合、これは予約文字列の“NULL”となります。

インストールのカスタマイズを一番簡単に行う方法は、インストールから除去したいサービスの前に単純にセミコロンを付ける方法です。

特定のセクションに項目を 1 行追加するには、次の例に示す形式で、必要なすべての項目情報を追加します。

### 追加前:

Screen Capture GUI

NULL Manager

    CL 0 1 SAVEG.EXE

    CL 0 1 SAVEG.HLP

### 追加後:

Screen Capture GUI

NULL Manager

    CL 0 1 SAVEG.EXE

    CL 0 1 SAVEG.HLP

    CL 0 1 CUSTOM.INI



IBM®

部品番号: 22L2233

Printed in Japan



22L2233